

伊予路

No. 152

[平成28年3月]



愛媛県公民館連合会

----- 表 紙 写 真 -----

加茂川左岸うちぬき公園

西日本最高峰の石鎚山を主峰とする石鎚連峰に源流をなす加茂川。この加茂川を流れる水が地下にしみこんで溜まり、圧力を受けて地上に噴き出してきた水を「うちぬき」（自噴水）と呼んでいます。パイプを地下に打ち込むだけで水が出てくる自然のしくみは、旧西条市内の民家でも見られる光景で、この「うちぬき」は、昭和60年に環境庁より「名水百選」に選定されました。

市街地を周遊するアクアルートは、旧西条藩の城下のなごりも感じられ、川魚や草花を観察しながらの水辺めぐりにとっておきのコースです。

〈目 次〉

◎ 表紙写真 《加茂川左岸うちぬき公園》

◇「地域と公民館の係わり」……………愛媛県公民館連合会 副会長 水野 茂…2

《公民館運営審議会委員からの提言》

◇「地域課題と共に歩む 公民館活動」……………西条市公民館運営審議会 委員長 近藤 勝志…4

◇「今、公民館に求められるもの」……………松山市三津浜公民館運営審議会 委員 河野美千代…5

《きてみなはいや おらが公民館》

◇「あかがねの歴史と地域の想い」……………新居浜市立別子山公民館 館長 和田 仲吉…6

◇「五十崎自治センターの取り組みと課題について」
……………内子町立五十崎自治センター 係長 宮田 哲郎…8

《あつまる・まなぶ・つなぐ》

◇「他市町、他県、そして他国に誇れる砥部町中央公民館を目指して」
……………砥部町中央公民館 主事 野々下博子…10

◇「地域活動の現状と課題について」……………八幡浜市立双岩地区公民館 主事 高砂 将二…11

《優良グループ紹介》

◇「今いるメンバーで今できる音楽で島を元気に！」
……………魚島中央公民館 ウオシマックス 佐伯 和恵…13

◇「森林セラピー -里山歩き-」
……………大洲市肱北公民館 故郷の自然や歴史を訪ねよう 土居 泰正…14

《館長さん こんにちは》

◇「今治市常盤公民館 岡田 豊 館長さんにご質問」
……………質問者 今治市常盤公民館 主事 青野 信久…16

◇「西予市中川公民館 山本 常俊 館長さんにご質問」
……………質問者 西予市中央公民館 主事 和氣 右記…17

《元気な主事さん》

◇「公民館主事雑感」……………東温市中央公民館南方西分館 主事 菅野 睦志…18

◇「わが公民館の取り組み」
……………松野町中央公民館・松丸地区公民館・目黒地区公民館 主事 榎谷 惇志…19

《郡市公連だより》

◇「地域の拠点となる公民館」……………四国中央市上分公民館 主事 合田 仁人…20

◇「公民館主事の囑託化 ～生涯学習課と市公連の協力・連携～」
……………宇和島市公民館連絡協議会 事務局長 富田 満久…22

《平成27年度愛媛県公民館研究大会》……………23

《県公連だより》……………49

《愛媛県公友会について》……………50

《編集後記》……………51

地域と公民館の係わり

愛媛県公民館連合会 副会長 水野 茂



一 はじめに

今年度は、県公民館研究大会も今治市を会場とし、盛大な中、無事行われ関係各位の皆様には、深く感謝を申し上げる次第であります。

さて、私事になりますが、今年度は伊予路の巻頭の原稿をお願いしますと橋本会長より依頼を頂き、心ならずも受けてしまったものの、何を書けばと思ひ悩み、結局身の丈で無理の無い文章が書ければと覚悟を決め、ペンを取りました。

私は、宇和島市立三浦公民館長に就任して今年で十一年が過ぎ、思えば随分長くなってしまったと思うこの頃です。また、昨年より宇和島市公連の会長と同時に、県公連前任の副会長が任期を残したまま退任された関係で、そのまま引継ぐ事となり、この二年は大変な年となってしまいました。

思えば、二十七年前亡くなった義父の口癖が、人間死ぬまで勉強と言う人でした。今更ながら思い出されるこの頃であります。力まず、飾らず、館長として今日まで取組んで来た一端を振り返り、文章にできればと思います。そして読まれた方に少しでも、今後の役に立つ事があれば幸いです。

二 三浦公民館の地域性

我が三浦公民館は、人口約千人で小さな地域が五地区に分かれ、それぞれに自治会が有ります。中心に三浦小学校、現在児童二十三人の小さな学校があります。その学校を取り巻くように自治会が集まっており、公民館の運営審議会の会長は、校区自治会長が自動的に就任します。委員は、自治会長をはじめ各種団体の会長、小学校長、郵便局長と、総勢二十八名の多数になりますので、地域で何か行事を行う時、運審の決議を持ち帰り、各会で報告するだけで地域全体がスムーズに動く、細かい連絡をしなくても、当日はそれぞれ時間厳守で集まり、指図しなくてもすべての準備が着々と進みます。

私達公民館は、いつも地域に感謝であります。これは昭和三十年以前の三浦村であった時代の体質が、そのまま続いているからであります。

三 公民館の役割

私は、館長に就任し、まず考えた事は、地域の為に何か一つでも残せる事が無いものかと言う事でありました。

考えてみますと、この地域は海に面して住宅が建ち並び、冬の季節風「北西」が吹く頃になると波が道路を超え住宅の屋根まで届く、台風になると屋根瓦はいつも飛んでしまうような、海岸に接近した住宅がほとんどなのです。何よりも怖いのは地震、津波であります。私は以前より防災組織は元より、全く準備が出来ていないのが気掛かりとなっていました。そこで、自分が館長の間になんとか自主防災組織の立ち上げに力を入れようと考え、行動を開始しました。関係各所に相談に行き、消防署の方にも何度も足を運んで頂き、防災についての指導講義も度々受講しました。しかし打つども響かず、全く成果が無いまま時が過ぎて行きます。

そして七年が過ぎようとする頃、三月十一日、あの東日本大震災が起き、津波の恐ろしさを目の当りにするのです。私も食い入るように見ながら、一日も早い防災の準備をしなければと決心をしました。

次の日から新聞やテレビ、本屋に行つて震災の写真のある本を買ひあさつては資料を作り、四月初会の運審に持つて行つて今年こそはとお願いをしました。なんと切ないものであります。関係の無い他の出来事という反応、機会ある度に話しても自治会は動いてくれる様子はあ

りませんでした。

数ヶ月が過ぎ、秋の色が濃くなる頃、一地区の自治会長が私を訪ねてくれました。防災組織を作りたいので相談に乗ってもらえないかとの話があり、目の前に一筋の光を見るような思いが致しました。なんとその時、私が訴え始めて七年の歳月が流れていました。

その地区は四十五戸の一番小さな地区ですが何事にも積極的で、中でも十数人の婦人部がすごく前向きで行動力のある女性達です。

数日後会議と呼ばれ、喜んで行ってみますと、男性三十数名、女性十数名の住民全戸が集まっていました。夫婦で参加の人もあり、地区の真剣さに頭の下がる思いでありました。

スムーズに話は進み、まず備蓄倉庫を作ろうという所まで段取りが進んで、役割分担も決つてくると話も熱を帯び、トントンと運んでいきますと女性の中から手が上がり「私達女性も何か手伝う事はありませんか」と言われました。私は、この時の事が今でもはっきりと目に浮かぶのです。そして、防災の話をする時、必ずこの時の話をします。私は「有りますよ。倉庫が出来るとすぐ中に保管する物が入用で、金はなるべ



防災備蓄倉庫（船隠地区）



防災備蓄倉庫（天満地区）



防災備蓄倉庫（天満地区）製作中

く使わずが基本ですから、古い毛布を出来る限り集めて下さい。そして洗濯をし、密封袋に入れ、倉庫に保管する準備をして下さい。大変な仕事ですが女性陣で頑張つて下さい。」と言いました。さっそく次の日から女性陣は毛布を集め、一週間後に行つて見ると百枚を超す毛布の山、これにはびっくり致しました。一ヶ月後、海抜五〇メートルの丘の上に見事な備蓄倉庫が完成しました。もちろん百枚を超す毛布を初め、水、食料、発電機等々多数の防災備品がピッシリと詰め込まれています。

その翌年、新役員の校区会長が防災に熱心な方で、少しずつ全地区で防災組織の立ち上げが進む気配が感じられるようになって来ました。

時を同じくして、ある会で防災の講師で素晴らしい方との出会いがあり、その年の五月、校区内すべての自治会で防災出前講座を開く事を決定、全家庭にビラを配布しました。当日は朝夕二回の放送で呼び掛け、五地区すべて終えた時には、住民の半数の動員が出来、大成功でありました。また、講師の方も阪神大震災の体験を生々しく語つて頂き、その恐ろしさがよく理解出来ました。おかげでそれまでと違って、組織の立ち上げも一気に進み、五地区すべてに、小さいながらも備蓄倉庫が完成し、宇和島市の中でも一番防災意識の高い地域として評価を頂いています。

これで良しという状態ではありませんが、今後、各地区が少しずつでも前進し、完成に近づくものと期待をしている所であります。

振り返ってみる時、公民館の大きな役割として、地域の課題を少しづつでも、気長に解決していく事の重大さを思い知った十一年でもありました。

公民館運営審議会委員からの提言

域課題と共に歩む 公民館活動

西条市公民館運営審議会 委員長 近藤勝志



西条市内には、中央公民館の他、旧西条地区十二館、旧東予地区九館、旧丹原地区五館、旧小松地区二館の計二十九館の公民館があり、各館において各地域の実情や特性に即した独自の事業を展開しています。

現在の公民館の役割については、社会教育法で規定されている「生涯学習の場」としての位置づけの他、地域コミュニティの中核施設として、また、防災の拠点施設として、更には地域のニーズを把握するとともに地域課題解決のための最前線としての役割等、市民ニーズの多様化や社会環境の複雑化に対応した多くの機能を有する施設として期待されていると痛切に感じています。

このため各公民館においては、館長を中心に各種講座の充実のほか、「偉人顕彰事業」や「ふるさと再発見事業」等、地域の特性に合致した事業を数多く展開するとともに、防災訓練、住民同士のコミュニティの形成や高齢者と子供たちとのふれあい交流、人権・同和意識の醸成や地域課題の解決に向けた事業に取り組んでいます。

一例を挙げると、玉津公民館においては、住民自らが「居住している地域の課題」を発掘し、その課題を詳細に分析することにより「原因」や「現状」を明らかにして、住民間で協議することにより、課題解決のための「計画や手法」を導きだすための「協働による地域づくり推進事業」に積極的に取り組む、自主・自立・自発的なコミュニティの育成のために活動しており、その中で開催される住民集會に殆どすべての公民館主事がファシリテーターとして参加して、自らのスキルアップに取り組んでいます。

また、当市においても少子高齢化や人口減少が進んでおり、全二十九館で組織する公民館連絡協議会でこの問題を共有し、「えひめ結婚支援センター」に登録、今年度は西条地区飯岡公民館や大町公民館で「婚活事業」が実施済となっており、三月にも実施を計画しています。同じく大町公民館では、同館と同

地区社会福祉協議会の共催で高齢者と地元小学校六年生が交流し、地元の現状や課題について話し合う「積善の集い事業」を開催し、敬老意識と郷土愛の醸成に寄与しています。このように、公民館職員が自発的に地域課題を発掘し、解決に向けた取り組みを積極的に展開する中、我々「公民館運営審議会」の役割も今まで以上に高い見識と専門性が求められる時代になっています。

そこで、西条市公民館運営審議会としても、公民館事業の適正な執行、また、新規事業の企画・立案、地域における課題の発掘・検討等、様々な役割を担っているものであるとの認識をメンバー全員で共有し、公民館活動に対して的確な指導や助言をしていくことが必要となっております。

このような観点から当該審議会のメンバーは、市内小中高校の代表や自治会、老人クラブ、社会福祉協議会等市内の各界各層の代表者で組織され、それぞれの分野において高い見識と専門性を有しており、公民館における様々な問題や課題に対して的確な指導助言を行っています。今後とも同審議会のメンバーが結束して地域課題の解決に向け、各地区公民館協力委員、地域住民及び公民館職員と協調・協力しながら、共に対応していきたいと考えています。

そして、今後とも公民館が地域住民にとつて最も身近で、信頼される施設であるよう行政とともに努力していきたいと思っています。

今、公民館に求められるもの

松山市三津浜公民館運営審議会 委員 河野美千代



私はこの街が好きだ。多少おせっかいなこの街も、歳を重ねれば、それがこの街のあたたかさだと気づかされた。三津浜は市の西部に位置し、古くは漁業と商

業で栄えた歴史と文化を併せ持つ街だ。戦災を免れ、昔の街並みや狭い路地の残る三津浜の地は、街にも人にもストーリーがある。通りを行けば誰かとお会い、誰かに声をかけられる。三津浜は古く狭い街だけに、袖すり合う街なのだ。ただ、街もずいぶんと形が変わった。人口減少、高齢化、児童も毎年減少している。かつてのにぎわいはいつしか失われてしまったのだが、松山市の「坂の上の雲のまちづくり」から、今また明るい話題も増えてきている。

私たちの三津浜公民館は、分館のない公民館だ。ゆえに、まとまりのある館であると言える。私は運営審議会委員の一人として館運営に参画させていただいているが、体育祭や文化祭、成人式、子ども会活動やスポーツ大会など多種多様な事業が行われるなかで、公民館の一年は慌ただしく過ぎる。公民館事業というものは、街それぞれを踏まえ運営されるのだが、教育熱心と言われる三津浜の場合、土地柄が強く表れ、特筆に値するのは子ども会の活動である

う。餅つき大会に始まり、ホテルまつり、海水浴、クリスマス会、料理教室など、工夫を凝らした催しに子どもたちは大喜びで、転任して来られた先生は、

参加児童の多さに驚きの声をあげる。なかでも、「子どもの居場所作り事業」からスタートした子ども茶道教室は、すでに十一年の長き歩みとなっており、文化祭のお茶席では、多くのお客様のお接待をすべて子どもたちが行う。みなさんからのことばかけに、子どもたちの自尊感情は大きく育まれていることだろう。無論、大人たちの支えがあつての活動だが、互いに成長できる取り組みの好事例である。子ども会事業は、すべての催しを子どもたちだけの行事とせず、多くの地域の人を巻き込むところがまたすばらしい。保護者や中学生のお手伝いをよく目にし、地域の方は昔遊びを指導してくれている。教え教えられるのほほえましい光景に、世代の交わりが見て取れるのだ。これぞ、わが館の姿である。袖すり合う街が、子どもたちを見守ってくれているのだ。こうした関わりと交わりのなかで、次の世代へと地域文化は継承されている。世代を超えた場づくりこそが、今、公民館に求められている命題であると私は思う。

ただいかんせん、公民館は高齢化し、どの事業も以前のように進まなくなつた。のんびりの地域性が変革を嫌っているのだ。そのため、事業は変わり映えがなく、内容の見直しや新しい取り組みもなされない。私は率直に、若い力がほしいと願っている。私たち世代が思っている以上に時代は進化し、若く研ぎ澄まされた彼らの感性は不可欠となつた。地域に役立つ若い

力をプロデュースするのは公民館の役割りではあるまいか。そのためには、まず公民館が主体的に、若い人が参加したくなる事業を企画していかなければならない。現状、各団体の活動に若い力は見えない。各団体がひとり歩きしている状況も残念でならない。課題解決のためには、ネットワークづくりが急務だ。まちづくり協議会との連携、近隣館との協力もしかりである。公民館は仲良しこよしの活動ではない。改めて公民館の存在意義やあり方を考える時期に来ている。時代の要請である災害対策や子育て支援、高齢者の生活支援など地域の絆を必須とする取り組みはまさに公民館のお家芸なのだから、地域の礎として、その要請に応えなければならぬ。三津浜はその昔、隆盛を極めた土地柄だけに、実に豊富な人材を備えている。ただ、力自体はあるものの、その力を結集できていない。だからこそ、公民館は待ちの姿勢ではない。共助を形にすべく、街の人をどんどん結びつけてほしいのだ。

私は、この街が持つゆつたり、まったりの独特の空気がたまらなく好きだ。この街を誇りに、そして大切に思っている。先人が守り紡いだ歴史と文化を後世に引き継ぐために、今一度、地域がしっかりとつながり、街の魅力をさらに磨いていければと私は強く願う。この街の価値を知るからこそ、今、動かなければと焦る。この思いを活動のエネルギーに変えたい。三津浜の街で新たなストーリーを描くために声をあげなければならぬ。そう、心に届く声で思いの宿ったことばを叫ぶのだ。一人の運営審議会委員として、多くの理解者と、共感してくれる若い力を得るために。

きてみなはいや おらが公民館

あかがねの歴史と地域の想い

新居浜市立別子山公民館 館長 和田 仲吉

一、別子山地域の概要

まず、私どもの地域の概要等について説明いたしますと、別子山地域の場所は、市の山間部に位置し、市内中心部から三十五キロと距離があり、南は高知県大川村と県境を接する山深い場所に位置します。

当地区は、かつて銅の山として繁栄し、人口も一万人以上を数える程の有数の銅の産出地でしたが、遠い昔の繁栄をよそに、昭和四十八年の銅山閉山に伴い、職場を求め新居浜市内へと移り住むことで人口が激減してしまい、小規模自治体ではありますが、別子山村として何とか生き残ろうと、当時の村長以下これからの地域をどう変えていくか試行錯誤しながら村政を運営してきました。ですが、厳しい現実には勝てず、平成十五年四月一日、市町村合併の流れを受け「村」という看板を下ろすことになりました。

地域を取り巻く現状とかつての華々しい繁栄の姿を忘れることはできませんが、その歴史にしがみつくと事だけでは、前には進むことが出来ない現状を皆さんわかりきっているからこそ、一歩一歩前に進み地域を変える努力をしているとところでございます。

まず現在の校区の現状でございますが、山間の極小規模地域で、人口は、百八十人足らず世帯数は百に満たない現状で、世帯が地域の山間地に点在しており、高齢化率も、ほぼ

半分が六十五歳以上の高齢世帯となっております。

学校は一校で、小学校児童四名、中学校生徒二名と極小規模校でございます。

また、地域内の電源（発電施設）につきましては、古くは地域の森林組合が管理運営を行っておりましたが、合併の流れを受け住友共同電力が引継ぎ現在も供給事業者として管理運営を行っております。

さらに、燃料と言えば、ガス・ガソリン販売ですが、現在は四国中央市に店を構える事業者が管理運営を行っております。

どの施設にしても、施設の老朽化や耐用年数の関係で維持管理に多額の費用を要すること等問題は山積しており、生活に欠かせない問題だけに、早め早めの対応が求められるところでございます。

いくつかの問題も現状の中に出てまいりましたが、地域に暮らす人がいる限りは、前向きに解決をすることが必要でございます。

二、地域の歴史をたどる

振り返りますと、私どもの地域は、元禄三年に銅の大鉱脈が発見されことにより、現住友の前身がその翌年から採鉱を開始したことに始まり、元禄十一年には当時産銅量世界一と言われ、明治時代後期には人口一万二千四百人余りで、県下第四位と別子山に大きな町が出来ました。

その後、明治二十七年には、伊庭貞剛が別子に赴任し銅山開発により荒れた山を自然にかえすため大規模な植林事業に取り組み、以後この事業は続けられ、多い年には二百二十万本を超す植林が実施されました。また、明治三十二年の別子大水害により重大な被害を受けた、以後採鉱の中心が新居浜市に移るにつれ旧別子時代の終焉を迎えることとなり、昭和四十八年には鉱山が閉山となり、人口も激減し典型的な極小規模自治体として、村政を続けてまいりましたが、時代も平成に入り、各方面のあおりを受け、平成十五年には現在の新居浜市と合併されたのでございます。

現在では、登山に最適なルートとして、旧別子銅山採鉱跡を見ることが出来る近代化産業遺産として、徐々に脚光を浴び、多くの方が訪れるようになっております。

三、地域事業の現状

ここ数年前より、自治会組織が取り組む各種事業が盛んに行われておりますが、その事業活動を紹介いたしますと、まず、愛媛県が行う補助事業で、「地域を限界集落と呼ばせない」をコンセプトに地域住民総参加で絆を深め、交流人口を拡大し、地域再生の足掛かりとして実施した事業がございます。内容は、地域の春・夏・秋・冬を題材とした各種事業でございますが、まず「春」は桜で、地域内に存在する巨木桜「エドヒガン桜」をメインにお花見の宴を開き、プロの歌手をお呼びして桜の下で、ライブコンサートを開催するなど、山奥の開催にもかかわらず多くの参加者を迎えることが出来ました。

また、この桜につきましては、平成二十五



「エドヒガン桜」とライブコンサート

年に入り新居浜市指定天然記念物として指定いただき、その価値を高めていただいておりますし、未公認ながら、別子山のエドヒガン桜は、日本一の桜と言われております。

季節も夏を迎え、地域を東西に流れております銅山川を利用して「魚つかみ大会」アメゴの成魚を川に放流し、つかみ取りを行うもので、多くの子供たちに楽しんでいただきました。

さらに夏の後半には、地域内の素晴らしい星空を観察していただく「星空観察会」を実施いたしました。

また、秋には、地域の素晴らしい紅葉を眺望していただくため、ヘリコプターを終日チャーターしての遊覧飛行を計画しましたが、当日の天候不順でやむなく中止となりました。ですが、地域の皆さんの次のイベントに向けての向上心は非常に高くやる気のみなざるものでした。

ちょうど今年度は、つい先日遊覧飛行を無事実施することが出来、多くの方に別子山の紅葉を楽しんでいただくことが出来ました。



別子山雪合戦大会

さらに冬を迎え季節最後のイベント活動として、「雪合戦大会」を開催し地域の冬を満喫していただきましたが、山間部に位置する当地域でも温暖化の影響が「雪」が、なかなか積もることがむつかしいと言う現状で、皆さん雪を心まことにし、最大限の準備を行い大会開催にこぎつけることが出来ました。

この大会においても、地域の絆の重さを感じるので、みなさん相互に休む間もなく動いていただき、成功に導いていただきました功績は、今後の地域づくりに弾みのつくものとなりました。

この様に、取組を開始した事業は、毎年継続して実施しており補助事業・単独事業の如何をとらず、継続することの大切さを実感しており、様々な事業の取組が、交流人口の拡大と定住人口の増に繋がることを期待し、動きを進めております。

四、地域づくりと公民館

これまでも、公民館で地域づくりの何を担えばよいのかと、色々と検討を重ねてまいりましたが、公民館が出来ることは、一つからでも地域づくりにつながることは、いわゆる縁の下の力持ちとして、何からでも動きを起し、地域の笑顔を生み出す事、これに尽きるのではないかと思います。これまでもいろいろと事業活動を行っておりますが、公民館独自で出来る事には限りがあり、全てにおいて、地域の協力協働がなければなしえるものではないと思いますので、公民館として出来る使命を果たして行きたいと思っております。

部分的に紹介いたしますと、先ほどもイベント活動の中にごさいました、「エドヒガン桜の周辺整備事業」ですが、桜の開花前に枯れ木の除去や除草作業など、周辺整備を行い、訪れる花見客をおもてなしすることを目的にしております。また、登山体験では、二年前までは地域の子供たちを対象に、旧別子銅山跡を散策し、産業遺産群を見学することで、後世に伝え残す取り組みとしておりましたが、今年度は、一般の皆さんを対象に広く参加を募り実施いたしました。これによって、新居

浜市と別子山の深いつながりを学び、今一度合併の意味を認識し、別子山の将来のあるべき姿を皆さんで考える良い機会となりました。さらに、校区の運動会では、学校の児童生徒数の減少により、学校単独での実施はむづかしい現実をカバーすることも踏まえ、校区全体で実施しております。

これにより、子供たちも、三世代の交流が出来るなど、地域内のふれあいを醸成することに繋がっております。

まだまだご紹介しきれませんが、他にも炭焼き炭アート教室や、連合自治会とコラボした、雪合戦大会と様々な事業を行っております。

五、おわりに

地域のおかれた現状は、簡単に変えられるものではないと思いますので、近い将来の為に、公民館がどこまでその支援が出来るのかを十分考え、一層各組織との協力協働を果たし、本来の公民館としての使命を全うしながら地域とのより緊密な連携を図り、まちづくりの活性化を支援出来る様実りのある公民館作りをめざしたいと思っております。

五十崎自治センターの取り組みと課題について

内子町立五十崎自治センター 係長 宮田哲郎

五十崎自治センター管内(旧五十崎町)の概要

内子町は、旧内子町、旧五十崎町、旧小田町の三町が平成十七年一月一日に合併し、当初は二万人を超えた人口も二〇一〇年国勢調

査では一八、〇四五人、国立社会保障・人口

問題研究所の二〇一三年推計では二〇二〇年で一五、〇三九人、二〇二五年では一四、〇七七人と、他の地方の中山間地域と同様、過

疎高齢化の問題が深刻化する地域であります。内子町内の五十自治センターの一つであります当五十自治センターは、名前の通り旧五十自治会管内に持つ、十一自治会五、三五〇人の人口(八月一日現在)で構成される地域です。

五十自治センターについて

旧五十自治時代から実質一公民館で運営されて、当時は社会教育及び共生館ホール、図書室をはじめとするハードの管理が中心でありましたが、地元の運営組織を管内三十八自治会の上位に一六自治会を統括する自治会を発足、三十二分館を廃止し改編すると同時に五十中央公民館から五十自治センターとなりました。自治会の地域づくりを応援していくことも加わり、多機能な組織としての歩みを始めました。

五十自治センター主な活動について

おおむね二歳以下の幼児と保護者のふれあい教室(親子学級)、管内の中心を流れる小田川河川敷や貯水池周辺での小学生を対象とする水生生物・とんぼ観察(自然観察会)、主に主婦層が参加する女性教室、高齢者(老人会)が対象の高齢者教室など年齢別の取り組みから、実行委員会などで取り組む文化祭・夏まつり・各種スポーツ大会のイベント、教育集会所のあけぼの集会所の関連事業であるあけぼの人権学習会をはじめとする人権同和教育など、もろだくさんで住民有志の皆様のご助力がなければ実施は不可能なほど目白押しですが、さらに全国で頭を抱える人口減少・移住促進をはじめとした地域おこしを加え、答えがない難題に日々頭を悩ませる日々

です。

自治会の取り組みに対して私たちの果たす役割とは

もともと自治会の考え方や必要性を認識していなかった住民の皆さんに対して、自治会組織制度を、合併を念頭に導入したこともあり、これらの考え方が浸透するには時間がかかります。一方で自治会に地域づくりのイニシアチブを持たせた制度は行政サイドで確立され、行政に任せることを念頭に置くこれまでの考え方を変えられず、これをうまく活用できないまま取り残されていくことを避けるため、管内の住民力の向上と強化を図ることを目標に今まで事業の展開（先進地への研修やその地域でのリーダー的役割の方を招いての講演会など）を実施してまいりました。現在も管内の住民のみなさんに、先年に各自



地域づくり研究大会



無煙炭化器講習会



御祓夏祭り

一人でも多く参加しその上での結果が出せるように、多くの人が足元にある目標を、十数年後集落人口が大幅に減少していく地域機能が損なわれていく現実に向け、力をまとめていけるように啓発や事業を続けて企画していきたいと思えます。まず手始めに管内にある平成二十四年度をもって統合・閉校した旧御祓小学校校舎の廃校利用の取り組みを、今までの夏まつりや婚活事業に加えて、複数の自治会が協力の場として育てよう、また移住者対策や限界集落内の環境維持についても、これらの事業から拡がっていけるように、自治会・地域おこし協力隊・企業や学校ボランティアと連携しながら小さな一歩からでも進めればと思います。

自治会がおおむね十年先までの取り組みを計画として取りまとめた「地域づくり計画」及び地域おこしの課題である「定住促進」に対する管内のみなさんの認識や問題点を洗い出すべくこの二つを中心としたアンケートを配布・回収しております。この結果を参考に管内住民と町長はじめ理事者・各課長の出席する年一回の「地域づくり懇談会」で議論を深め、住民に意識してもらうため、自治センターからの広報や今後の事業に役立てていきたいと考えております。

このような取り組みで住民力の向上につなげていきたいですが、同時に自治センターに求められるハードルも上がっております。わたしたち自治センター単独ではできることが限られますので、管内の十一自治会の自治意識を高め、力を少しずつお借りしながら、結

束力のある自治会活動から、連携し創作力あふれる地域づくりを目指していきたいと思えます。

変わる行政・地域と多くの人に共有してもらいたいこと

今後行政側での現在の自治会活動を担保する制度を含め、めまぐるしい変化が予想されます。逆に行政内部からも国などの補助金に頼らずにまず自助する意識を持つように、社会（住民）から求められ、採算的にも「継続可能な事業」の実施者として変わっていかざるをえなくなると思われます。このような制度や枠組みだけが大きく見直される中、実際に取り組んでいく地域がどこまで生き残れるかは、地域のみなさんをはじめとして、私たちも考え努力した結果ということになります。一人でも多く参加しその上での結果が出せるように、多くの人が足元にある目標

あつまる まなぶ つなぐ

他市町、他県、そして他国に誇れる

砥部町中央公民館を目指して

砥部町中央公民館 主事 野々下 博子

砥部町中央公民館には、自分たちが住んでいるまちを一周してそのよさを再発見する事業、芸術的な才能を育てる教室、高齢者の方にとって有意義な講座、住民の方と協力して定期的に花を植える事業など、充実した事業をたくさん用意しております。今回は、それら事業の中からひとつを取り上げて、公民館職員の目線で述べていきたいと思います。

砥部町中央公民館の事業のなかで、他市町と比較して特徴的だと思うもののひとつが、とべっ子ふれあい国際交流デイキャンプです。平成二十八年度からは国際教養講座という新規事業を検討しているところです。今回はこれまでの国際交流事業について振り返りたいと思います。

とべっ子ふれあい国際交流デイキャンプでは、町内小学生や幼児などを対象に「Hello! (ハロー)」の一言で友達になれるような視野の広い子どもたちを育てるため、世界各国の留学生の人たちとゲームなどを通して交流を図り、国際交流の基礎を養っています。平成二十七年度は三回開催し、延べ一四一名の参加がありました。平成二十四年度から実施してきましたが、今では砥部町中央公民館の恒例事業となっています。

近年、英語を学ぶ機会はたくさん存在して

います。しかし、異文化交流の機会となると、身近にはなかなか存在しないと思います。異文化交流があつてこそ、英語を学んでその知識を生かせる機会が欲しいと思います。

この国際交流デイキャンプでは、様々な外国の方々が参加し、子どもたちと交流を行い、異文化交流を通して、子どもたちは、英語をなぜ学ばないといけないのか、それは、英語を使えば、世界中のたくさんの人たちと意思疎通が出来るから、だと理解します。そして、



一生懸命学ぶ様子

外国の方々遊びを通じて仲良くなり、楽しみながら外国について学びます。それこそが子どもたちの学習意欲を向上させるために必要なことだと思います。

現代社会において英語は欠かせない存在となつていきます。さらに、国際的な視野をもつことの重要性はさらに高まる一方です。そのような中、さまざまな外国の方々と交流し、遊びを通して本場の英語に直接触れることは、子どもたちの国際化への興味関心を育てることにつながります。これからの未来を担うとベツ子たちが集まり、外国の子どもたちと

地域活動の現状と課題について

八幡浜市立双岩地区公民館 主事 高砂将二

私達の双岩地区公民館は、八幡浜市の南部に在り、隣市西予市と接する山に囲まれた中山間地域です。地区の中心的な場所に、夫婦岩と呼ばれ地区の名称にもなった奇岩のある自然豊かな場所です。主に、柑橘や稲作の生産農家が多くありましたが、今ではだんだんと数が減っています。

当館の紹介をします。双岩地区は、若山・中津川・布喜川・横平・谷・釜倉の六つの区に別れて山を境にしています。区全体の世帯数は七百一戸、千六百十六人の人口があります。少し双岩地区の成り立ちを説明したいと思います。

昭和三十年の町村合併前は、双岩村として六区の他に二つの区がありました。町村合併

もに学び、次世代社会へとその体験をつないでいく、その結果こそが彼らの財産となります。それは同時に砥部町の財産となり、他市町、他県、他国に誇れる砥部町となつていくと思います。

このように、事業により住民の皆さんは成長をします。その成長の結果、よりよいまちづくりにつながっていくと思つていきます。

これからも、砥部町中央公民館は、住民とともにまちづくりに関わる良質な公民館を目指して、頑張つていきます。

時に二つの区は、隣の三瓶町に行き八幡浜市には六つの区が行くことになりました。

その当時双岩村の時期には、明治七年に村立の小学校を建て、翌年には各地区に小学校を建てています。早い時期から子どもの教育には、熱心な土地柄でした。

また春の異動時期には、小中学校・保育所の先生の送別会を地区全体で開催しています。**地域と学校と公民館**

このような教育に熱心で関わりの深い土地柄で地域と学校と公民館が、それぞれかわりながら活動をしています。

四月には、「竹の子の集い」といって小学生を対象に竹掘りをしております。これは、二十年以上も続いており、春の名物行事と

なつていきます。市のフラワーパークの竹林で行います。

山の子供たちですが、実際に竹を掘るのは初めての子供たちです。管理している双岩実年会の皆さんに教えてもらいながら掘っていきます。掘った竹は、それぞれ持ち帰ります。その後、ボランティアの人達とゲームをし公民館の女性たちが炊いた竹ご飯をいただきます。

毎年行われる行事で、地域と学校と公民館が、交流できる事業となつていきます。



また秋には、地域と学校が一緒になり秋季大運動会が行なわれます。

これは、小中学校に加えて双岩保育所の園児や老人会も加わり各年代が参加する運動会になつていきます。それぞれの種目に全員参加

できるようにしております。運動会最後のリレーでは、各地区に別れて、小中学生と男性女性と一緒に走り順位を競います。秋の一日の締めくくりとして多めに盛り上がりませう。

その他の学級紹介

当館では、地域の人たちにより各種の教室を開いています。

短歌会・大正琴・フラワーアレンジメント
絵手紙教室・ヨガ・コーラス・カラオケなどを行っていました。利用回数は、月一度から二度定期的に行われています。

このような活動を発表する機会として、毎年一月に文化祭と二月に芸能発表会を開催しています。

特に文化祭は、専業農家が多い時代に農業文化祭として始まっています。



各農家が、手塩にかけて育てた柑橘類や野菜類などの農産物を持ち寄り、その出来栄を競います。みかんどころ八幡浜ですので、やはり柑橘類が中心となっています。

長く続いてきた農産物の品評会ですが、近年専業農家の減少と高齢化により出品数が減っています。

また文化祭では、各教室の作品展示や小学生の作品展示を行っています。

バザーでは、多くの方がつきたての餅を買い求めています。

今後の課題として

年間を通じて活動していますが、当館で

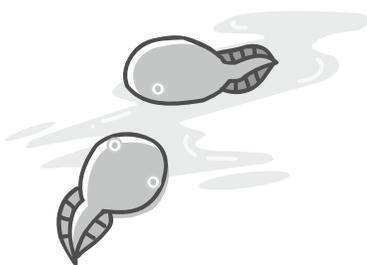


も高齢化と少子化は大きな課題です。

現在、地区にある双岩中学校の統廃合問題の問題があります。少子化により学校が、無くなれば地域の大事な中核を失うこととなります。これは、地域だけでなく公民館活動にとっても大きな痛手となります。解決するには、容易ではありません。また、人口減少により行事への参加者人数が、減ってきています。これも、山間地域の抱える大きな問題の一つです。

抱える問題は、双岩地区だけでなく多くの地区で抱えている問題です。市内の各公民館も同じような課題を抱えています。それぞれの問題点をお互いに意見交換をしながら、より良い解決方法を考えています。

今後は、地域の特色を生かした活動ができるように地域の人もともにある公民館を目指していきたいと思っています。



優良グループ紹介

今いるメンバーで今できる音楽で島を元気に！

魚島中央公民館 ウオシマックス 佐伯和恵

上島町魚島は、燧灘のほぼ中央に位置する人口約百七十人の小さな離島です。平成十六年十月に弓削町、岩城村、生名村と合併し上島町になりましたが、他の旧三町村からは直線距離で約二十キロ離れており、弓削島まで一日四便の定期船で約四十五分を要します。その分、自然は豊かで、春になると一周道路の桜が一齐に並び、夏は透明で真つ青な海が島を取り囲みます。秋は祭り一色で島中がにぎやかになり、冬になるといたるところに水仙が咲き誇り、魚島名物のデビラ干しも見られるなど、四季折々の風景が楽しめます。魚島の主産業は漁業で、周囲は古くから鯛で有名な好漁場として知られるほど豊かな海に恵まれています。近年は漁獲高が大幅に減少し、六次産業化等による漁業の再興及び後継者の育成が急務となっています。また、全国的にも深刻化している少子高齢化の波は魚島では顕著に表れており、人口は年々減少の一途を辿っている状態です。

そんな状況の中で『なんとか島を元気にしたい』という思いから、魚島軽音楽部「ウオシマックス」は平成十九年に結成されました。ウオシマックスとは ushinamax（魚島最高）という意味で、魚島への愛をこめて命名されたそうです。私は当時そのメンバーではありませんでしたが、リーダーの福永誠



くん（当時魚島丸の船長）を筆頭にメンバー五人での活動がスタートしました。

当時、機材もそろわず、バンド経験者も少ない中手探りで、毎日集まって練習をしていました。小さい島なので魚島住民から「練習がうるさい。」とか「本当にできるのか。」などという声もあったようですが、練習場所を住宅からなるべく離れたところに移し、小さな音で練習するなど、その声をバネに猛練習を繰り返しました。その甲斐あって、結成された年に行われた上島音楽祭という町民参加

型音楽イベントでステージデビューを果たしたのですが、そのステージが素晴らしく、魚島住民だけでなく、上島町の他の島々でも一躍有名になりました。「魚島にもこんな元気な人がいるのか」「魚島でもこんな楽しいことができるといってすばらしい。」という島外の方々賞賛の声を頂き、大きな第一歩となりました。

「これからもっと活躍の場を増やそう。頑張っていこう。」メンバー全員が決意した矢先、リーダーの福永君が

病気のため他界。魚島を愛し、島の人々に愛された福永君を亡くし島中が悲しみに包まれました。ウオシマックスも要のリーダーを亡くし解散の危機に直面します。しかし、悲しんでばかりいては福永君も喜ばないのではないかと、残りのメンバーで福永君の分も島を元気にしようではないかというメンバーの強い思いがあり、存続させることとなり、私も何かお手伝いしたいという思いから参加させていただくようになりました。魚島地区の文化祭や敬老会など地元行事はもちろん、町内の音楽イベントや桜まつりにも出演し、昨年は今治市のおんまぐ祭りからオフアートを頂くまでになりました。平成二十二年からは、ウオシマックス単独ライブを開催するなど、地域に根ざしたバンドとして多くの観客を魅了できるようになりました。ま



ぶとなり、おかげさまで毎年大変な好評を頂いております。

現在、メンバーは二十代から四十代までの魚島在住の教職員と役場職員七人で活動しております。毎年異動などで入れ変わるメンバーに加え、音楽性も技術も異なるため、一つ曲が完成するまでに大変な時間と労力を費やします。仕事の繁忙期とライブの日が近づき、思うように練習が進まないときは「もうやめようか・・・。」と弱音を吐くこともあります。しかし、メンバー同士で励ましあっています。しかし、「今年も楽しいライブをありがとう。」という住民の方のお声が我々を奮い立たせてくれています。これからも、『今いるメンバーで、今できる音楽で島を楽しむ』をモットーに、上手下手関係なく私たちが元気に演奏し、音楽を心から楽しんでる姿を通して、この島で暮らす方々へ少しでも活力を与え、私たちの音楽を楽しみの一つにしたいだけです。う活動していきたいと思えます。

た、その翌年からは毎年のように、町内の他のバンドやコーラス部とも交流を図り、共同でのライブを開催し、会場の皆さんと一緒に歌ったり、体操を用意するなど共感し合える構成やトーク、衣装にも工夫を凝らしたライ

森林セラピー ― 里山歩き ―

故郷の自然や歴史を訪ねよう

大洲市肱北公民館 土居 泰正

― はじめに

大洲は山あり、川あり、海ありの自然豊かな町である。ちよつと詳しくいうと、自然林・植林・神社の森・肱川という県下一の川がある。また六万石の城下町でもある。自然を踏

まえた歴史がある。中でも自然現象では世界でも類をみない「肱川あらし」を見ることが出来るなど、森を歩きこかしこの歴史を訪ねることには条件のいい地域である。

そこで二時間から三時間程度かけてゆっくり

り歩き、小川沿いの森や溪谷や植物観察、歴史的に貴重な物や場所を訪ねる。位置付けは肱北公民館の年間計画にある。いろいろある諸行事の中でサークル活動の一つにセツトされている。

「森林セラピー―里山歩き―」と題して「森を五感で感じよう」という合い言葉を取り入れ、針葉樹や広葉樹の森の散策やトレッキングは安心感があり、活気が高まる。また小川のせせらぎ、鳥の声、足元から伝わる土の感触、山道の落ち葉の感触、野の花や実、木々の花や実、時には動物に出会うことなど、様々な要素が人間の五感を知らず知らず引き込んでいき気持ちよく高揚する。もう一つは仲間同士の会話、触れ合い、教え合いを大



里山歩き「如法寺の森を歩こう」



切にしている。これが共通の場をつくり人との絆を深めていくことになる。

二 活動内容の事例

(一) 富士山(とみすやま)を歩こう

市内に標高三二〇mの山がある。この山は六月には六万本のツツジが満開になる。また山頂には古代遺跡ドルメンが残っている。中腹には盤珪禪師によつて開山されたと言う「如法寺」がある。また歴代の藩主の墓地があり、歴史的にもまた自然林、植林の原木がある。内容が豊富なので何度かに分けて実施している。

(二) 少彦名神社の懸造の参籠殿を訪ねる

川沿いの遊歩道を散策しながらいろいろな碑を読みながら市指定天然記念物(ムクロ

ジ)を見て、続いて河畔林(天然記念物エノキ樹叢)を観察しながら神社へ到着。本殿近くにある参籠殿を見学。この建物は櫓を組んだ上に建物がある珍しい建て方の建造物である。現在は修復され立派なものになっている。全国で有名なものは京都の清水寺がある。

(三) 長浜肱川の河口を訪ねよう

こんな時は汽車を利用して車は使わない、長浜駅に降りて早速展望台へ行く。展望台からは長浜の町と開閉橋、赤橋の愛称で親しまれている長浜大橋(国の重要文化財)も見える。この河口は「肱川あらし」の通り道でもある。展望台を下り町筋へ、海岸の植物や住吉神社がある。この神社は藩主が参勤交代で海路を行くときには無事に江戸へと祈願したという。ここへ来るときはおにぎり弁当を持参する実にシンプルなものである。

三 終わりに

年十回の実施で四月と八月は休みである。現在十二月の実施で五十七回となる。会員は一年ごとに募集して五月から実施する。応募者は四十名前後、参加者は常時三十名前後で月により変動がある。歩くので厳しいところもあるし、ゆっくり歩くこともある。本人次第で楽しく時間を過ごしてもらいたい。事務局は肱北公民館が担当している。本当にありがたいことと感謝している。

館長さんこんにちは

今治市常盤公民館

岡田 豊館長さんにご質問

今治市常盤公民館

主事 青野 信久



今治市常盤公民館
岡田 豊 館長

質問一 まず、はじめに自己紹介をお願いします。

平成二十六年三月に三十八年間の教職を定年退職し、縁あってその四月より常盤公民館の館長を務めさせてもらっています。

常盤地区にある中学校で通算で十八年間の教員生活を送らせていただいたということが、常盤公民館でお世話になるきっかけであるように思います。

その間、生徒や保護者、また地域の方々には、何事にも代え難い多くのことを学ばせていただきました。その後の教員生活の礎にな

りました。お世話になったことへの少しでも恩返しをしたいと微力ではありますが精一杯仕事に励んでいます。

質問二 館長として、公民館の活動や運営に携わってどうですか。

平成二十六年四月に館長と主事が一緒に着任しました。私自身は業務が初めてで多少不安なこともありましたが、ベテランで実績のある主事、あるいは公民館の関係団体の役員さん、地区の自治会長さん等に助けをもらいながら、一年間すべての行事をこなすことができました。何分ひとつひとつの行事が初めてであるため、先の見通しがもてず迷惑をかけたことも多々あったように思います。

常盤地区は八十七の単位自治会があり、世帯数五千戸、総人口一万人余りの大きな地区です。それだけに、公民館の活動や運営に関する業務は他地域に比べると比較的多いように思われます。公民館の収容者数は三〇〇人を超え、今治市の公民館では最も大きい施設です。

常盤公民館には、三十九の登録団体があり、スポーツ・健康・趣味・教育・舞踊はじめ一五の自主講座、子育て支援・健康教室の主催事業を月に二回から四回開設しています。

その他、常盤地区社会福祉協議会との共催事業として、高齢者大学・福祉餅つき大会・しめ縄教室・高齢者の集い、また婦人会が主

催する年三回の訪宅事業（民生委員さんによるお寿司等の配布）等、地区の高齢の方に対する福祉活動を実施しています。

さらに、体育文化振興会との共催事業として、住民運動会・納涼まつり・文化祭・芸能音楽祭を実施しています。常盤地区の伝統的な行事として、毎年盛大に開催されています。スポーツ面においても、年二回レクバレー大会・ソフトバレー大会を実施し、常盤地区内だけでなく地区外からの参加も得て、幅広く交流を深めています。

ひとつの行事を終え一息ついたら次の行事の準備と駆け足で仕事を進めてきました。その都度、関係団体の役員さん、地域の住民の方に協力や支援をいただきました。感謝することが多かったです。

質問三 常盤公民館における課題と今後の抱負について聞かせてください。

各団体の組織の新陳代謝が進んでいないことが挙げられると思います。それぞれの団体の役員の方の交代がなく、高齢化とともに組織の存続が危ぶまれる事態になるのではないかと危惧しています。若い世代の人材の確保が喫緊の課題です。

常盤公民館の方が述べ五〇〇人余り、毎日それぞれの講座で利用されています。学びたい、健康でありたい、楽しみたいという思いがひしひしと伝わってきます。生涯学習の拠点として公民館の果たす役割は大きいんだなと感じます。こうした利用者の思いにに応えよう努めていきたいと思っています。

西予市中川公民館

山本常俊館長さんにご質問

西予市中央公民館

主事 和氣右記



西予市中川公民館
山本 常俊 館長

質問一 館長さんのマイブームはありますか？

朝、夕方になるとウォーキングをしている人を多く見かける。年を重ねるにつれ、自分の健康について考え、取り組まれておられると思う。

私も定年退職後から日課としてウォーキングをしている。健康診断を受けた結果、糖尿病を患っている。医師から「治療を無視していたところ、医者から「治療をしなかったら人間失格になるよ」と言われ、運動をするよう指導された。そういう事でウォーキングをしているが、その途中で、登校する子供たちに出会うと「おはよう」と声をかけてもなかなか返事が返ってこない。やっとか細い声で「おはようございます」と返ってきて、目を逸らしたままそそくさと

その場を離れていく。そのうち顔なじみになった子供たちから「おはようございます」と元気に挨拶する子供がでてきて、びっくりするやら嬉しいやら。毎朝何十回「おはよう」というと、自分の体調もいと感じていたような気がした。また、登校途中で見守ってくれる地域の人達には、感謝するとともに、ありがたいことだと思う。

質問二 公民館長として心がけていることはありますか？

公民館長の重任を受けて一期二年が終わり二期目に入っている。当初、公民館活動がどんなものかわからず、何をしたいか困ったものだった。しかし、公民館は地域の拠点として、人と人との出会いの場、仲間づくりの場、生きがいづくりの場として、誰でも気軽に立ち寄りたくなる場所になるよう心がけて活動が続いている。その活動の中で子供たちとの交流が多くある事は大変よいことと思う。様々な公民館活動を通して、小・中学生から高齢者の方まで幅広い年齢層の人達との交流は、私にとっては貴重な得難い財産となっている。

質問三 公民館の事業で特に思い出深かった事業はありますか？

特に、公民館事業に参加していた小学生が成長し、中学生、高校生となって出会った時、ニコッと挨拶してくれる時は嬉しいものである。公民館事業の中で小学校に関連した行事、通学合宿「やんちゃ村」や上三館主催のドキドキ野外活動と歩こう大会等、さまざまな活動や体験を通して親交を図る事はでき、参加

した子供たちにとって、これからの長い人生の中で、忘れられない思い出づくりになっているのではないかと思う。

特に「やんちゃ村」は子供たちが集団で公民館に宿泊し炊事・洗濯・清掃そして料理等を自分たちで行いながら通学する活動である。公民館で過ごす間「異学年との交流」もでき、子供たちが家庭や親の大切さに気づく事が分かることを目的としている。又、もらい湯を提供して頂いた高齢者の地域の人達も「子供たちとふれあう機会ができて楽しい」「疲れをしらない子供たちの姿をみて、笑顔や元気をもらった」という感想もあった。

普段は登下校の時しか合うことのない子供たちとやんちゃ村では、夕食時等色々話す機会があり、日が経つにつれ親しくなって純粋な会話することは楽しみである。

私も妻との二人暮らしであるので、もらい湯を提供した時は家の中が明るくなり、元気をもらった思いもある。

地域の「宝」でもある子供たちと親しく接する機会が多く持てることは、大きな喜びである。支援の手を精一杯差し伸べしっかりと見守っていきたいと思う。

質問四 公民館の課題や今後の目標について教えてください。

少子高齢化や過疎化が進み、年々利用者の高齢化が進むなかで、サークル等団体の後継者を育成し、子育て世代をもっと巻き込みながら公民館を中心にこれからの地域づくりを担う人材を発掘し、増やしていくことが重要になっていくように感じる。

元気な主事さん

公民館主事雑感

東温市中央公民館南方西分館

主事 菅野 睦 志

南方西地区は、旧川内町の南西部に位置し、人口三百人余りの小さな地区公民館です。近くにはパナソニックや工業団地、流通団地があり、また、農業の盛んな地域です。米と麦が中心ですが、野菜や花も作っている方もいます。

現在の東温市を退職して三年目になりますが、退職と同時に少しでも地域のためにと(しづぶ)役を引き受けました。役所勤めが長くなると、運動会をはじめ色々な行事に参加しておりますので、内容はおおむね把握しており、それが良いのか悪いのか考えものです。公民館活動について紹介いたします。

市町村合併がありました。しかし、東温市はそのままに残りました。しかし、東温市はまだ良い方ですが、少子高齢化はやはり影響が大きく、地区の伝統行事を行うのも少なからず支障がはじめています。

私たちの地区には「くぼの泉」という水のきれいな泉があり、そこが憩いの場として公園に整備されました。地区の管理ですから、毎日のトイレ清掃やら除草など大変ですが、

地区全体で取り組んでいます。つい先日でも便座が盗難に会いあわてたところ。主なもの、八月の「さかなのつかみ採り大会」や十二月の「しめ縄づくり、もちつき大会」などです。また、地区の主な行事はこの場所です。

以前からこの地区は子供のいる世帯は少なかったのですが、八年程前に約二十世帯の団地(はなタウン)ができ、そのほとんどが子供のいる家で、大変協力的で行事に参加してもらっています。しかし、この子供たちが成長した後は、ま



5月 絵画教室 (かまぼこ板)



8月 魚のつかみ採り

た、同じ様なことになるのを心配しています。最後に、私の人生訓といえは大きですが、モットーを言いますと「何事もやらずに判る訳がない、やっつけから物を言え」です。また、人生は山登りだと思えます。舗装の道を二、三時間で登る人もいれば、登山道や誤ってうさぎ道を選んで一日かかり、すばらしい景色や花を見つけるもありと、どちらも比較はできません。

各地域で頑張っている皆様に敬意を表するとともに、今後の公民館活動の運営が難しくなると思われれます。方法について何か変えていく必要があるのではと、考える日々です。

わが公民館の取り組み

松野町中央公民館・松丸地区公民館・
目黒地区公民館

主事 榎谷 惇志

私たちの町「松野町」は、愛媛県の西南部、北宇和郡の東部に位置し、高知県と境を接する山間のまちで、県内で一番ちいさな町です。町土の八十四％は森林であり、足摺宇和海国立公園内「滑床溪谷」を有し、日本最後の清流と言われる四万十川の最大の支流である広見川、透明度の高い目黒川等を流れる豊かな水は天然うなぎや川ガニの宝庫です。

その昔、土佐街道の要所であった旧松丸街道は物流・交易の場として栄え、その町並みは今なお保存されています。また、中世の城郭「河後森城」は国指定史跡に認定されるなど、歴史と文化の町として保存・伝承されています。

観光施設としては、滑床溪谷内に宿泊施設「森の国ホテル」や「森の国ロジジ」、広見川河川敷には道の駅「虹の森公園」、淡水魚水族館「おさかな館」をはじめとした複合観光施設、また、JR予土線松丸駅の駅舎と一体となった「森の国ぼっほ温泉」など、地域間交流の拠点となっています。

松野町の公民館は、松野町中央公民館、地区館である松丸地区公民館、吉野生地区公民館、目黒地区公民館の計四館あります。

現在、私は、その四館のうち、中央公民館、

松丸地区公民館、目黒地区公民館の三館の主事をしておりますので、取り組みについてご紹介させていただきます。

例年、四月下旬から五月初めの時期に一回、十一月上旬から下旬の時期に一回の計二回、中央公民館主催で滑床自然観察登山を開催しております。毎回二十人程度の参加があり、滑床を愛する会のご協力のもと、参加者はガイドの説明に耳を傾けながら、広葉樹やししゃくなげの観察、山頂から見える展望美を満喫していました。



八月には、松丸地区公民館主催で盆踊り大会を実施しております。こちらは、町内で開催される夏祭り大会と同時開催しており、二部構成で実施しております。

一部においては、「念仏供養」を行ないま

す。ご先祖の方、物故者のご冥福を祈り、代表の皆様にご焼香をいただき、その後、念仏太鼓の演奏を行いました。

二部においては、盆踊り大会を実施し、始めに松野西小学校児童有志、次に松丸保育園、最後は、一般参加者による踊りで、大いに盛り上がりました。

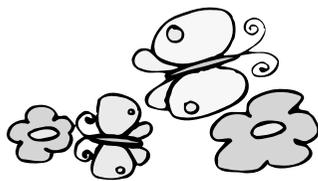
同八月には、中央公民館主催による分館対抗スポーツフェスティバルを実施いたしました。この事業は、子ども・成人・高齢者の各世代が一堂に会し、スポーツに親しみ、競技を通じて交流を深め、地域の一体感を再び高めることを目的に実施しています。種目は、一般男子レクバレー、小学生レクバレー、一般女子レクバレー、小学生ゲートボール、高齢者ゲートボールの全五種目によって争い、



白熱した大会となりました。

十月には、松野町制六十周年記念といたしまして、三年ぶりに森の国大運動会を実施いたしました。こちらは、分館対抗による競技のほか、豪華賞品を賭けたフリー参加競技や、高齢者や幼児を対象とした宝探しなど、老若男女問わず誰でも参加できる内容となっております。町民が一致団結して、交流を深めました。各種競技では白熱した展開となり、終始、声援と拍手が会場を包み、最後まで目の離せない大会となりました。

その他、各公民館において事業を実施しておりますが、公民館としてこれまで以上に町民の方のニーズに合った取り組みを実施していく必要があると思います。継続していく事業も大切であるが、新規事業の開設により公民館活動が活気のあるものに造り上げていきたいです。公民館活動に対して、チャレンジング精神を持ち、これまで培ってきた知識や行動力を十分に発揮し、地域に根差した公民館活動に取り組んでいきたいと思っております。



都市公連だより

地域の拠点となる公民館

四国中央市上分公民館

主事 合田 仁 人

一、はじめに

当市は愛媛県の東端部に位置し、東は香川県に面し、南東は徳島県、更に南は四国山地を境に高知県に接しており、四国で唯一、四県が接する地域となります。松山市と高松市へは約八十キロメートル、高知市までは約六十キロメートル、徳島市までは約百キロメートルの距離にあります。

私たちの公民館がある上分町は、人口約二千七百人、町のシンボルである向山公園を臨む中心部に小学校、保育園、図書館、公民館などが建ち並んでおり、古くは、金生川に沿った土佐街道の街村として発展し、土佐街道と阿波街道の分岐する交通の要の地となり、江戸時代から山間部の物資の集散地として商業が盛んでした。

また、地域のつながり、団結力が非常に強い土地柄であり、壮年会、婦人会、老人会や地域ボランティアなどが一緒に様々な活動を実施しています。今回は、その中から四つの事業を紹介させていただきますと思います。

二、主な事業

①向山（むかいやま）公園桜まつり

四月初旬に町のシンボルである向山公園にて、向山公園桜まつりが開催され、毎年、二千人を超える人手で賑わっています。子供相撲大会（小学生対象）や般座太鼓の演奏、地元高校吹奏楽部・バトン部の演奏、ゲーム大会などのイベントを行っています。また、終盤に行われる餅投げは、約五千個用意しており、一番の盛り上がりとなっています。

子供からお年寄りまで参加し地域が一体となって、自然を守り育て、ふれあうことの大切さを学ぶ機会を提供するという目的ではじめた、向山公園桜まつりは、今回で三十八回目を迎え、今では、町の恒例行事となっております。毎年、春の到来とともに地域の方々に期待されています。



②町民運動会

体育文化を通して地域住民のつながり深めることを目的として、毎年五月に町民運動会を開催しています。わが上分町民運動会は今年度で六十五回を迎え、愛媛県下でも有数の歴史をもつ運動会となりました。毎年五百人以上の子どもからお年寄りまでの地域住民が参加されており、ムカデ競争やみんなでジャンプ、最大の呼び物地区別対抗リレーなどいろいろな競技を通じ、盛り上がり、地域ふれあいの貴重な場となっています。

また、今年度は第六十五回記念大会として、豪華景品を目指した参加者全員による「ジャンケン大会」をサブプライズ企画として行い、大変盛り上がりました。



③町内文化祭

地域に密着した文化活動の振興を図ること

を目的として、毎年十月末の三日間で町内文化祭を開催しています。今年度で二十六回目となった文化祭ですが、書道・水墨画・写真など保育園の園児から一般の方のさまざまな作品展示と茶道のサークルのみなさんによるお茶席、最終日には小学校の体育館で行われる公民館利用サークルの演芸披露、有志によるカラオケ披露で構成される芸能部門発表会を開催しています。イベントの最後には抽選会を行い、たくさんの子どもからお年寄りの地域住民が参加し、楽しく盛り上がる催しとなっています。



④サンタが家にやってくる

毎年、十二月二十四日クリスマススイブの夜、隣接する金田地区、川滝地区の公民館主事による三地区の合同事業で、サンタクロースに扮し地区内の二歳児を対象に訪問してい



ます。
今年是三地区合わせて三十五世帯のご家庭を訪問しました。サンタクロースを見て喜び子や驚く子、泣いてしまう子など様々ですが、プレゼントと一緒に撮る記念写真を年賀状にして送っているのでいい記念になっています。

三、おわりに

今回紹介した事業以外にも、盆おどり大会や三世代交流事業によるもちつきなど様々な行事を行っております。

これからも、上分公民館が地域の交流の拠点、みんなに愛される憩いの場となるよう、地域の方々と一緒に頑張っていきたいと思っております。

公民館主事の嘱託化

～生涯学習課と市公連の協力・連携～

宇和島市公民館連絡協議会
事務局長（生涯学習課）

富田 満久

宇和島市は平成十七年に旧宇和島市、吉田町、三間町、津島町の一市三町が合併し、今年十周年を迎えました。

公民館は旧宇和島市に十九館、吉田町に五館、三間町に一館、津島町に六館の三十一館と、県内でも公民館の多い市だと思っております。そのすべてに公民館主事を置いておりますが、中央館的な公民館（四館）を除く二十七館の主事について、三カ年掛けて正職員から嘱託職員に変更しました。現在、嘱託化完了から二年目を迎えました。嘱託化に伴う弊害等は特に見当たらず、意欲ある嘱託職員の努力によって順調に公民館運営がなされているように思います。今後は異動を伴う事務局や中央館の正職員が、年数的にベテランとなっていく嘱託の主事に対して適切に指導できるかといったところが課題となっていくものと思います。

公民館数が多いことについては、もともと小学校単位に設置されていたことと、地域のつながりや社会教育に対するニーズも高い地域柄と理解して、今後も現状を維持しながら生涯学習のまちづくりを進めていきたいと思っております。一方で、少子化に伴い小学校が次々と統廃合されていく中で、公民館だ

けが残る地域も出てきました。学校は無くなっても高齢者は多かったり、地域の課題に対して公民館はやはり必要な存在であると考えております。

そのような中、宇和島市公連では、日頃各館で孤軍奮闘している主事が孤立しないよう、情報共有して互いに研鑽すべく、ほぼ毎月、主事部会研修や年四回の館長主事合同で研修会を行っております。さらに新任の主事に対しては新任主事研修会を年数回実施するとともに、すべての公民館に対して事務局の三人の指導主事が巡回指導を行っております。また、全公民館を中学校区をベースに六つのブロックに分け、適宜ブロック会議を行いながら情報交換や親睦にもつなげております。そ



館長・主事合同研修会



館長・主事合同研修会

のように宇和島市では、公民館主事の嘱託化に伴うフォローを市公連とともに手厚く行うことで、公民館の果たすべき役割と住民サービスを低下させないよう、日々努力しているところです。

また、市公連では自己研鑽のため自主的にグループ研究を行っており、その成果は毎年二月の市公民館研究大会において発表しております。今年度は、市を挙げて結婚支援に力を入れたこともあり、事務局の生涯学習課とともに公民館においても婚活講座を行うこととなったため、初めての取組である「婚活」をテーマに研究を行います。今年度は既に各ブロック単位で婚活講座を実践しましたので、その結果を基に反省点や今後の取組、そして公民館で婚活支援を行う意義について研究を深めたいと思っております。

今後も、宇和島市と市公連は協力と連携しながら、二人三脚で宇和島市の社会教育の推進に寄与したいと思っております。

【新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～】

平成二十七年年度 愛媛県公民館研究大会 【記録】

会場 今治市中央公民館 ほか

平成二十七年年度 愛媛県公民館研究大会（主催 愛媛県公民館連合会・愛媛県教育委員会）が、「新しい公民館像を求めて～公民館の不易と流行～」を大会主題として、十月二十一日（水）に今治市中央公民館ほかを会場に盛大に開催されました。

開会式には、中村時広知事（代理 井上正愛媛県教育委員会教育長）、本宮勇愛媛県議会議長、菅良二今治市長（代理 高橋実樹今治市教育委員会教育長）、土居英雄愛媛新聞社長ほか、多数のご来賓の方々のご臨席を賜りました。

大会の開会行事では、橋本英厚愛媛県公民館連合会長の開会あいさつ、来賓祝辞に続いて、各部門の表彰が行われました。



教育長と県公連会長の連名表彰では、優良公民館十七館及び優良公民館職員十八名、県公連会長表彰では優良公民館十館、優良公民館職員四十二名、優良自治公民館九館、優良団体・グループ五団体、優良グループリーダー七名、優良協力者三名、県公連会長感謝状では、永年勤続公民館運営審議委員会二十二名、更に愛媛新聞社長・県公連会長の連名表彰では、館報コンクール入選十六館にそれぞれ表彰状・感謝状が授与されました。

開会行事に続きまして、愛媛大学名誉教授の讃岐幸治先生に「ひろがれ 生まれ 人の力 地域の

力」と題した講演をしていただき、今後の公民館活動の活性化に活かせる大変有意義なお話を伺いました。

午後からは、五つの会場に分かれまして、分科会A「人権意識を育てる公民館活動」同B「地域の特色を活かしたプログラム開発」同C「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」同D「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」同E「家庭教育を支援する公民館活動」の五つのテーマの五つの分科会が開催されましたが、各分科会とも熱心に討議が行われました。

以下、当日の分科会の記録に基づいて、その要旨を掲載します。

【分科会役員】

〈分科会A〉 テーマ「人権意識を育てる公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 今治市中央公民館係長

助言者 四国中央市教育委員会生涯学習課課長補佐

日野 恵廣

村上 信仁

川上 祐志

谷本 弘

藤原 謙治

渡部 壽彦

服部 正

〈分科会B〉 テーマ「地域の特色を活かしたプログラム開発」

運営責任者 県公連副会長

会場責任者 今治市中央公民館館長補佐

助言者 新居浜市地域交流センター所長

司会者 砥部町中央公民館館長

発表者 宇和島市立遊子公民館主事

今治市清水公民館主事

記 録 者 西予市宇和公民館主事

〈分科会C〉 テーマ「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 今治市波止浜公民館館長

白崎 幸恵

村越 孝洋

石城戸美恵子

重信 昭雄

鳳 浩希

助言者 砥部町青少年育成センター青少年補導員

司会者 内子町立内子自治センター館長

発表者 松山市久米公民館運営審議会委員長

西予市野村公民館主事

記録者 上島町生名公民館主事

〔分科会D〕 テーマ「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 今治市上浦開発総合センター館長

助言者 八幡浜市立日土地区公民館館長

司会者 東温市中央公民館副館長

発表者 伊方町中央公民館主任

四国中央市中曾根公民館主事

記録者 伊予市上野地区公民館係長

〔分科会E〕 テーマ「家庭教育を支援する公民館活動」

運営責任者 県公連理事

会場責任者 今治市玉川公民館館長

助言者 鬼北町立愛治公民館館長

司会者 西条市中央公民館公民館運営審議会委員

発表者 松前町西公民館係長

愛南町立長月公民館主事

記録者 宇和島市立清満公民館主事

- 2 公民館の組織・体制
- 3 人権に関する事業の概要

(1) 年間テーマの設定

(2) 推進母体

(3) 具体的な取組

ア 従来の事業

イ 実施内容の見直し・新規事業等

ウ 今後の研究課題

4 最後に

○「下畑野川公民館（分館）の取組」

久万高原町 下畑野川分館 館長 渡部 壽彦

1 はじめに

2 下畑野川公民館の活動内容

(1) 人権教育推進大会

ア 大会の内容

(ア) 講演

(イ) 児童生徒の作品展示

(ウ) 「人権の花」の配付

イ 大会を終えて（成果と課題）

(2) 「畑野川お接待の会」の再開

ア 「お接待の会」の状況（今年四月十八日スタート）

イ 「お接待の会」の取組を通じて

3 今後について

2 質疑応答

分科会1 今治市 社会教育指導員 西山 博

○国安公民館さんへの質問

きちんとした推進体制を整えられ、事業内容の具体的なところまで計画されていて大変いいなと、しっかりやっておられるなど勉強になりました。

小学校の定例役員会に合わせて学習会を開催したということですが、人集めには非常に良いと思います。他の会に重ねるとど

【分科会協議記録】

分科会A 「人権意識を育てる公民館活動について」

1 発表要旨

○「無関心から関心へ」

- 1 国安地区の概要
 - 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

うしても時間的な制約があり、研修内容に深まりがちよつと今一つかなというところもあるのではないか、そのあたりどんな工夫をされているのかお聞きしたい。

一人の一〇〇歩より一〇〇人の一步と先程言われましたが、学校が大事だということはいつも思いますが、(学校だったら全員に教育できる。)やはり幅広くやろうと思うとPTAと公民館ではないかなと常々考えています。その活動をより充実させるために参加しやすい方法が一つの課題だとありましたが、とりあえず今年はこのことをやってみようということがあればお聞きしたい。

○下畑野川分館さんへの質問

お接待と人権意識ということで、高齢者の方々にいかに生きがいを与えるか、生きがいを持って生活してもらえるか、それを人権課題にしているのかなと受け止め、この地域ではそういう課題が一番大事なのかなと解釈したのですが、この事業を始めて高齢者の人が「元気になったんだよ。」とか地域の繋がりが深まって、こういうことが良くなったんだよという事例があればお聞きしたい。

A 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

一昨年、八月に予定していた人権教育の学習会が大雨により延期となりました。十月に小学校でPTAが人権教育を中心に役員会をするという話を聞き、その役員会をする場所に公民館を使ってもらい、私どもの人権教育の学習会をその役員会の中でさせてもらいました。役員さんのほうも同じような研修を二回も受けずに済み、話も充実して良かったということがあり、今年度は最初から、小学校の人権の学習会に我々の人権教育の学習会を重ねました。そうすることによって、PTAの人が参加しやすくなったと考えています。

本来のPTAの役員会議と内容が、もともと人権教育の学習会の予定で特にPTA側からのクレームとか、反対の意見等はなく、かえって、こういった形のほうがいいという話はしました。それぞれの団体に少なくとも何名は出て下さいと人数割り当てをお願いして、出来るだけ多くの人に参加してもらおうということをやっております。

人権教育学習会の参加者は前年度比較で、高齢者の方が前年度三十六名だったのが、今年は五十一名になっており、若い世代の方は九十名から一〇三名となっております。若い世代が増えれば、それにつられて、おそらく家の方でおじいちゃん、おばあちゃんに話して、「ほなわしも行ってみろうかい。」という感じになったのかなとこのように感じております。

A 久万高原町公民館下畑野川分館 館長 渡部 壽彦

会員自体が随分少ない中での取り組みですので、下畑野川東老人クラブ、西老人クラブの会長さん、運営委員さんあたりが中心となって進めてきています。二つの公民館が地域にありますが、一つの公民館は老人クラブが成立しないという状況になっております。代表の方にお話を聞くと、どこそこのおばあちゃんには家に引っこんどのけんあれを引っ張り出さないかんというお話をしてもらいました。実はその方が毎日、毎日出てこられます。必ずほたもちを作ります。「もうええで」と言う。「私の唯一の楽しみ取らんといて。」という返事が返ってきます。ご質問された方が言われたように、私どもの地域でお年寄りが元気であるということとは、地域が元気だということだと思っています。それくらいお年寄りの方のエネルギーも大きいし、位置づけも大きいと思います。スポーツ活動が残念ながら無いので、そういう意味でお待ちの方は非常にいいなと思っています。他所では出来ませんので、私どもの地域での特別な財産だと思っています。

A 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

婦人会組織というのがもう二十年位前からなくなって、女性の方への呼び掛けが難しくなっています。そのあたり婦人会組織が出来たらもう少しいろんな会合への参加ができるので、婦人会の何らかの組織を立ち上げることが出来ればいいなと思っています。

《司会者》

どこも悩んでおられます。婦人会というのも随分なくなってきました。高齢化は進んでいます。我々も同じですけど、そういったところで人材を生かすような取り組みをして頂いております。公民館長さん方だけでなく主事さん方もたくさんおられますので、

若い人のご発言もお願いしたい。

Q 西予市 中央公民館 主事 鈴木 友三郎
〇西条市国安公民館さんへの質問

最近では便利な時代で、すごく情報は飛び交っており、良い事も悪い事も、そしていろんな人がいろんな意見を言う時代になってきていると思います。その中でビデオの上映、DVDも含めて、会がマンネリ化する中で私どもは常日頃出来るだけ最新の情報で内容も分かり易く、少し主張した中で全部を見せるというより、ある程度ポイントを絞って説明をしていくというふうに取り組んでいるところです。その啓発ビデオの内容がある程度最新のものなのか、それとも従来の上手く使っているのかお聞きしたい。

A 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

五月頃にビデオ選定会というのがあります。その選定会で各公民館とか小中学校の人權教育の主任の先生が集まって、今年度はこのビデオを上映してはどうだろうか、例えば、私どもの地区(国安地区)はこのビデオを今年はやりたいとか、他の地区はこのビデオをやりたいというふうなビデオ選定会をやっています。そこで採用して学習会で活用している状況です。

Q 西予市 中央公民館 主事 鈴木 友三郎

その時に購入されるのは。

A 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

教育委員会のほうで持っています。そのビデオを我々が貸出し依頼をして、それを借りて上映するという形をとっております。各公民館にそれぞれビデオがあるというわけではありません。教育委員会のほうで、年間に一巻か二巻か新しいビデオを買っていると思います。古いビデオを選ぶ場所(公民館)があるかもわかりませんが、今の時代に合った内容のビデオを出来るだけ選定するようにしています。

Q 西条市 飯岡公民館 館長 藤田 正史

〇国安公民館長さんへの質問

地区別懇談会の内容はどのようなものか教えて頂きたい。私の所

は地区別懇談会という名前ではないが、人權同和教育学習会という形で、小中学校の先生をはじめ私達公民館職員、連合自治会役員さんらが集まり人權教育をしています。

高齢者の人權ということで人權の一つとして理解しました。地区の高齢者すべてが元気であればそれに越したことはないと思います。中には、寝込んだりして高齢者の介護について一つの人権の問題が出てくると思いますが、そういう方向での取り組みというのは今後考えておられるかお伺いしたい。

《司会者》

二人の方へ地区別懇談会についてのどのような中身か、やり方かそのあたりのご説明をお願いします。

A 西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

旧西条地区はそれぞれの地域に出て行き集会所とかで懇談会、学習会をしているということだと思います。ちよつと昔は集会所に向いて行き、公民館、学校の先生、教育委員会関係者が出てきて、以前はそれぞれの集会所で、ここ十数年、記憶が定かではないが、最近では公民館を使って、そこへ皆さん集まって下さいという形で行っております。地域に向いてということではなく公民館を会場にして、昼からと夜からとに分け、出てきてもいい世代を中心に、夜は高齢者の方を案内するという形をとっております。

A 久万高原町公民館下畑野川分館 館長 渡部 壽彦

地域の高齢者の中で、寝たきりになっていらっしゃる方は当然おいでになります。小さい地域ですので横のつながりがけっこうございまして、情報が共有できています。社会福祉協議会が非常に熱心に動いてくれています。公民館として動くということは難しいです。なぜかという、常勤の者が誰一人居りません。一週間の中で、カラオケ教室が一回、ピンポン教室が一回というふうな、ひと月の中で行くことが少ないので難しいと思っております。

Q 今治市 宮窪地域教育課課長補佐 矢野 明彦

〇西条市 国安公民館さんへの質問

毎月配付しているチラシについては、市のほうのチラシを利用しているのか、公民館独自でチラシを作って配付しているのか、

その内容については、毎月どのように違うのか伺いたい。

A 西条市 国分公民館 館長 藤原 謙治

市のほうから毎月一〇日は人権の日ということで、その時々に合わせて内容のチラシが配付され、それを私どものほうで印刷して配付しています。公民館で独自に作って配付しているわけではありません。

3 分科会テーマに対する研究協議

分科会2

わが公民館の取組

○今治市 国分公民館長 門田 富和

唐子台団地という昭和四十九年～五十一年と三年間でマンモス団地が出来まして、当時の国分小学校では五〇〇名を余っておりました。今現在二八〇名です。四十年経った現在、当時三十代、四十代の方たちが現在七十代、八十代となり本当に高齢者になりました。そのマンモス団地は、みな他所から来られた方達ばかりで、その三十代四十代の若い方達は地域のつながりを大事にし、絆も作っていろいろ面白いイベントを企画して、取り組んでいました。それが五十年経った現在、高齢者夫婦または同居老人、子供さん方は都会に就職したり街中に家を建てられたりという状況で国分地区の中の唐子台では活気がありません。

私は今年の四月から国分公民館に行っております。公民館をお年寄りが集まるコミュニティの場にしたいということで、職員とも相談しながらどうすれば人が集まるだろうか、前任の館長とは違った感覚で取り組んでおります。ふれあいサロンというコミュニティの場、ひきこもりのお年寄りとか、高齢者がいる中で出来るだけ公民館に将棋や囲碁、カラオケ等で一人でも二人でも三人でもいいので集まってほしい。公民館には五十人以上でないと使用できないとか、制限もあります。これも館長の判断で、一人でも二人でも将棋や囲碁するのにですね、いいのではと思っておりますし、この九月からふれあいサロンということで、喫茶コーナーを設けてコーヒー提供しています。無料ではありませんが（コーヒーの豆代五〇円で有料）、そこへ行けば、おしゃ

べりができる、世間話ができる、また会議の合間にちよつと一服のコーヒーをやるのかという場づくりをしています。

人が集まるようないい方法があれば教えて頂きたい。うちはこういうふうにしてるんだよ、そうするとこんなふうになんか集まるよというヒント、ご指導があれば教えて頂きたい。

《司会者》

今、高齢化社会になって、息切れ状態になっているところで、マンネリ化を打破する活動を何か始めようと、ふれあいサロンを始めたということです。そういう意味で他の公民館でも人を集めるのに良い方法があるよという話が聞けたらいいなと思います。特にお年寄りが集まってそこで交流の場を作るといふサロン活動をやっておられる公民館は他にありますか。サロンだけでなくおとうという取り組みをしている公民館がありましたら是非お聞かせ願いたい。

○久万高原町公民館下畑野川分館 館長 渡部 壽彦

老人の方々のお接待の会を動かすにあたって、代表の方が考えられたのが老人の方々を元気にせんといかんということでした。私どもが回りから観ていて思うのが自己有用感（自分が役に立っているという感覚）を引つ張り出しているように思います。一人一芸という例えば「ぼたもち、しょうゆ餅はまかし」といて、トマトはなんぼでも作るよ」というものが何かないかとただ集まってお話をするだけというのは難しいと思います。

お遍路さんが一人もいなくても、集まったお年寄りの方々は十分楽しんでいる。お昼もそこで頂くわけで、自分たちが持ち寄った物でお昼を済ませて、夕刻に帰っていくというスタイルは、まるでサロンだというふうに思っています。おそらくこの地域も同じ問題を抱えていると思います。お年寄りの元気がないと地域全体の元気には繋がらないし、若い者にとっても、行く道が閉ざされているようなそんなものがあるので、年寄りが元気だと言っただけで、わしもここで頑張ってみようかという気持ちになっていると、私どもは思っているところです。

○今治市 国分公民館長 門田 富和

先般、敬老会があり、公民館でしているが、敬老会の出席率が昨年まで九・四、九・五で、今治市の平均が一三の中下、非常に低い。(一昨年末までは老人クラブがありました。)ところが一昨年に老人クラブが解散しました。解散して横のつながり、声の掛け合いがあり一〇％くらいありました。今年はいろんな形で敬老会を迎えたが、九・六と若干上がった。老人クラブがないのは寂しいことで、高齢化社会を迎える中で老人クラブは大事だと思っています。先程久万高原町の館長さんが言われたようにお接待も一つのサロンということで、今年の文化祭では各ブースで団体が役割りを決めますが、お年寄りの一芸を自由なブースの中に取り入れ、今度の十一月の文化祭でやってみようかなという一つのヒントを得ました。ありがとうございます。

《司会者》

高齢者の方が元気であれば地域が元気だと、元気にしなくてはいけないということで、老人の方の活用や生きがいの場を提供するというお話がありました。

ほとんどの地区で同和教育をずっとやってきたと思いますが、それがだんだん人権同和教育に名前が変わってきた中で、十何年やっていくという地区があればお知らせしたい。

○松山市 北条公民館 館長補佐 藤本 石根

私どもの場合は地区別懇談会はずっと長いのですが、松山市の場合は人権啓発委員というのを別に選定しております。町内会では北条公民館地区は二二〜二三人選んでおり、今年も十一月に集中して六組に分けて各町内会を一巡する四地区か五地区において地区懇をやっていきます。

北条の場合は旧北条市から人権教育は熱心な地域です。今日参加した人数位は年に一回は聖カタリナ大学で研究協議大会を開催しています。周知徹底ということで、チラシの問題がでしたが、土居では中学生により土居町の宣言ということで、全戸配付しています。

川之江では高校生が、子供を巻き込んで配付して周知徹底を図っている。「同和問題って何？」と子供に聞かれたらどう答え

られますか。という質問がありました。答えは出しませんが皆さん帰って考えてみて下さいと、根本に関わるような親子との間でどう答えるかなという、地区懇も非常に熱心に十一月は連日やりました。

《司会者》

大変充実した活動が展開されていると思います。先程説明がありましたように一〇〇人の一歩が大事じゃないかと言われますが、地区別懇談会で隔々まで浸透していくという啓発活動が大切であると思います。

関連したような発表で結構です。他の公民館ではどうでしょうか。○久万高原町公民館 露峰分館 館長 池田 照雄

大きく町全体での意識啓発という形で人権フェスタというのを十一月に行っています。(毎年実施しており今年で一七回目を迎える)それから十一月中心に各小学校区を対象に地域が抱えている問題をテーマに学習会、この時は学校参観を兼ねて実施している。そのほうが集まりやすいだろうということで実施している。実施主体はそれぞれ学校区にある公民館(三館)が持ち回りでお世話をしています。隣保館では毎月一回いろいろなテーマで学習会を開催しています。

《司会者》

他に活動の様子などお知らせ願います。

○西条市 国安公民館 館長 藤原 謙治

地区懇の内容について付け加えたい。人権啓発推進委員と各町内会長(区長)が集まってビデオの選定をします。そのビデオの選定は各町内会ごとに別のビデオを選定します。その選定に基づいて各町に行つて区長に召集を掛けてもらいます。平均二〇〜三〇人が集まります。二十七〜二十八の町内会がありますから、全体で五〇〜六〇人は集まります。ビデオは市から推薦された最も新しいものを中心に約三〇分を限度として意見交換をします。意見交換会に参加者が少ない場合は一グループで自由に話し合ってもらいます。その時は人権啓発推進委員は中に入りません。参加者の多い場合にはグループに分けてそこで話し合い、それに基づ

いて発表してもらおうということにしています。

《司会者》

先程、小学校区で学習会をするという発表を頂きましたが、学校を巻き込んで、公民館がタイアップして、啓発活動や学習活動の取組をされている公民館はありませんか。

○西条市 徳田公民館 館長 渡部 武志

徳田公民館では七つの自治会があり、中学校は丹原東中が1校、小学校が徳田小、田滝小の二校あります。共催になっていきます。公民館と丹原東中学校、徳田小学校、田滝小学校というように開催している。七つの自治会のうち、小さい自治会がありますので、一ヶ所だけは合同でやる場所があって、年間六回開催しております。これまでは同和の問題とか、セクハラ、パワハラ等の問題など主にしてきた。今年は、丹原東中管内については、性的マイノリティーを学校で取り上げて学生とともにやっております、これを取り扱ったらどうかというので、始めたのですが、昨日から六ヶ所回っていくようになっております。

学校から問題提起をして頂くのも一つの方法かなと感じました。話し合いの内容としては、最初に中学生四名に参加してもらい学習内容を発表してもらい、○×クイズ、ビデオの上映、それを観て参加者を人数によつて班分けをして懇談会をやり、来られている先生に全体的なものをまとめて頂いて発表して頂くという形で実施しています。

《司会者》

子どもを交えて研究をお互いにするという大変子どもたちにとって、大人も勉強しているという姿をしっかりと認識させ、自分たちだけではなく皆で取り組んでいるということを知らせるのにも非常に効果のある取り組みではないかと思えます。

○西条市 飯岡公民館館長 藤田 正史

公民館の隣に小学校があり、去年と一昨年の二年間小学校でハルセン病問題について学習をして、それを参考にする形で地域の方々の参加を得ながら人権教育を実施しました。子どもたちが(大島)青松園(国立療養所)へ行き、そこで施設の方々と話し合い

をしたり、いろいろな体験談を聞き学習してそれを学校に持ち帰って発表会をする、人権劇をしたり歌を歌ったり、感想発表、さらに小学生が自らの問題として人権についてどう感じたのかという発展的な発表をしました。それを地域の方々や聞いて最後には地域の方々の感想を聞くという方法で二年間やりました。今年も小学校と一緒にしたいと考えていましたが、学校のほうではハンセン病問題の学習をもう一年続けていますというので、地域としては今年も別々の問題をすることにしています。

○四国中央市 生涯学習課 主査 藤井 順司

隣保館では中学校区内にある小学校の小学六年生に隣保館に集まってもらい、人権同和教育の学習会と交流の場を作っています。その場に中学生も参加してもらい、いろいろな人権同和教育に対する思いを語り合い皆の意識を統一して、また小学校から中学校へ上がっていくような形を開いています。また公民館の連携した取組みですが、身元調査お断りのステッカーの貼付運動をしています。公民館を中心に学校とか行政と連携しながら一軒一軒各家庭を回りながらやっている状況です。

身元調査をなくすというのが大きな目標ですが、一軒一軒回ること、地域のひととの繋がりができ、活動している人の自己研修の場にもなっているのではないかと思います。

四国中央市では身近に出来る取組みとして、「心を育てる五つの目標」を定めて啓発に取り組んでいます。気持ちの良い「はい」の返事、はきものを揃える、人に呼ばれば「はい」の返事をする、相手の話を聞く、自分の意見を相手に伝える。

公民館のサークル、学校へは生徒、保護者に対して啓発を行っているところですが、どうして大切なのかを伝えていく中で、将来、差別を許さないという心を持ってもらう土台づくりとなるようにと取り組みを行っています。

○今治市 社会教育指導員 西山 博

この研究大会について、今回の参加者名簿を見て現役の教員が一人もいない。以前私が教育事務所にいた頃は地元の先生方も出て頂いていた。県大会ではなく東、中、南予の会も以前あり、

出て頂いていた。学社融合という言葉が流行り、連携よりも両方にメリットのある融合という形で学校とは密接な関係でないといけない。人権教育は学校の先生がやはり一番やってきたし、今後が一番やっていかないといけないのは先生ではないかと思えます。この主催は県公連と県教委になっているので、開催される地元の先生方には小学校、中学校だけでなく高校の先生方も来て頂いていっしょに考えるということが大事だと思います。もし可能であれば参加依頼の仕方を考えて頂いて学校の先生も参加して頂いたら公民館との連携も進むのではないかと思います。

《司会者》

記録が残りますので、本部のほうへも伝えて今後の研究大会のあり方も再考して頂くということをお願いが出来ればと思います。

○松山市 北条公民館 館長補佐 藤本 石根

学校の先生の場合は普通の日には出席できないと思います。北条の場合は土曜日にやります。

○今治市 社会教育指導員 西山 博

朝から参加というのは難しいと思いますが、近くの先生方で、午後のこの分科会や学社融合の会、人権教育の会とかいくつかと学校の教員が入っていたほうがいいという会を選んでご案内して進めていくということは可能ではないかと思えます。

4 指導・助言

四国中央市教育委員会生涯学習課 課長補佐 川上 祐志

○西条市 国安公民館さんへ

公民館での人権教育を進めていく中で、H二十六年年度の「動いていく」H二十七年年度の「守る」という年間のテーマを掲げるというのは大切だと思います。そのテーマに向かって突き進んで行くというところで、このテーマは本当に素晴らしいと感じました。何より自治会と小中学校等あらゆる関係団体を巻き込みながらの取り組みは素晴らしいと感じました。

国安地区の人権同和教育学習会を開催するに当たっても試行錯誤しながら取り組んでいる姿がよくわかりました。特に素晴らしいと感じたのは、単発的な学習会には終わらせていないところです。

学習会でまず取ったアンケートや意見をまとめて、それを地域の人達がどんなことを思っているのか、どう考えているのかというのをまとめて、それを公民館だよりの中で地域にフィードバックしている。地域に意見を返しているというのは素晴らしいと思えました。なかなかこういうことが出来るところがあるのかというとなかなか出来ていないのではと思います。きめ細かな取り組みを継続していくということが、地域の人たちが、人権教育に対して無関心から関心が変わっていく一つのきっかけになっていくのではないかとつくづく感じました。

○久万高原町 下畑野川分館さんへ

地域住民の方が、特に高齢者の方が支え合い助け合って生活をしながら、人権教育を進めている姿がよく分かりました。この取り組みというのは、長きに渡ってお遍路さんへのお接待の文化があったと、しかし地域の過疎化に伴ってお接待の取り組みが途切れていたが、地域の老人クラブの人からやろうと言う声が上がって、公民館もいっしょになって後押しをしながらこれを復活させたことは本当に人権教育と繋がりがあり、支え合って一つの繋いでいくという形があり本当に素晴らしいと思いました。この特色のある取り組みを継続し、続けて行ってほしいと思いました。

○特に地区別懇談会であるとか、いろいろな学習会をしていく中で、参加者をどう増やしていったらいいか分からないとか、学習方法もどうしていったらいいんだろうかと悩みはいろいろあると思います。

○私自身、人権教育を担当し取り組んでいく中で、あらゆる人権問題をどれだけの人が自分の問題として捉えているのかと思えます。本日の講演会の中で、二・六・二の法則について、これを人権教育に当てはめて考えていくと、二割の人は一生懸命頑張っている。差別はいけない事と思っている人達がいる。六割の人が、どういう風にしていったらいいのか分からない。どういう風に向き合ったらいいのか分からない。残りの二割の人は、極端に言う人権教育に対して、嫌だとか、こんなことする必要があるのかなと思っている方がいるかも知れません。

○ これから公民館の活動や人権教育を進めていく中で、この六割の人をいかに上の二割のほうに少しでも近づけていけるかどうか、やっていかなければならないと思っています。そして二割の否定的な人を切り捨てるのではなく、その人達とも一緒にやっていきながら、まず六割の人をどう突き上げていくのか、誰もが思っていると思います。公民館活動の中で出来ることは、自治会長会やサークル等の関係団体の会とかで、二分でも三分でも会の初めに人権教育に触れる時間を作ることが必要ではないかと思っています。それを少しずつ積み上げていくことがいいのではないかと思います。

○ 社会教育の中で学校の子どもたちがどんな学びをして、どんな思いを持っているのかを伝えていくことが必要ではないかと思えます。四国中央市で子供たちが書いた人権作文があります。この人権作文というのは、自分の大好きなおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんの「こういうところが大好きなんだ」という、そんなものを作っている。それを会の中で紹介をする。そういう事が必要です。子を持つ親として伝えられたらと思います。そういう取り組みも取り入れてほしいと思います。

○ 人権教育は難しい事ではなく、一つ一つの小さな積み上げをしていくことが、六割の人が少しでも二割の人に近づいていける営みに繋がっていくと思います。各関係機関において人権教育に触れる時間を作って頂きたい。

分科会B 「地域の特色を活かしたプログラム開発について」

1 発表要旨

○ 今治市清水公民館 主事 村越 孝洋

「公民館を使って子どもたちを育てていく」

―「サマースクール」の取組―

- (1) 清水地区の概要
- (2) 清水公民館の概要
- (3) 取組の概要
- (4) 取組の課題

○ 宇和島市遊子公民館 主事 石城戸 美恵子
「地域資源の活用と公民館の取組について」

- (1) 遊子地域の概要
- (2) 遊子公民館の主な行事・講座
- (3) ふる里だんだん祭りと公民館の取組について
- (4) おわりに

2 質疑・応答

Q 今治市老人クラブ連合会大三島支部連合会長 赤尾 卓
今治市清水公民館へ質問

○ サマースクールという夏休みを利用しての小学生を対象とした学習を行っているとのことだが、校区には小学校、中学校、教員のOBがたくさん在住しているということで、将来的には中学生にも拡大していく計画はあるのか。

○ 教える内容が国語・算数・読書感想文に限定されているようだが、将来的には夏休みといえば理科の自由研究もあるが教科を拡大していく予定はあるのか。

↳ 宇和島市遊子公民館へ質問

○ 老人を対象とした敬老慰安というのがありますが、具体的にどういうものを実施しているのか。

○ お年寄りといえは健康は貴重な財産であり宝物であるとわたしは思っていますが、健康づくりのために行っているものがあれば、参考に教えていただきたい。

A 今治市清水公民館 主事 村越 孝洋

○ 清水地区にも今治市立南中学校という清水小学生が通う中学校がある。中学生は部活動等でいろいろと忙しい関係があるが、できれば、将来的に中学生にも拡大していければと思っています。

○ 内容については、今は夏休み初日に行うということ小学生の夏休みの宿題を少しでも助けてあげようという考えから夏休みの宿題国語・算数・読書感想文というふうに始めた。今後課題としても定期的に行いたいと考えているので、定期的に行うのであれば夏休みの宿題とかではなく根本的に学力を伸ばすために必要な科目を行っていきたいと考えている。

A 宇和島市遊子公民館 主事 石城戸 美恵子

○遊子地区では自治会が敬老慰安会を中心として行っているため、公民館は取材やお年寄りの方たちの様子を見に行っている。

○公民館の事業としては、今年だと十一月二十五日に高齢者教室を行う予定。内容は、老人クラブの方々と相談したうえで輪投げ大会や、講師の先生を呼んでボイストレーニングをしたあとカラオケ大会などを行う予定。

Q 八幡浜市川上地区公民館 主事 楠 理恵

○今治市清水公民館へ質問

○サマースクールをする前には小学校のほうには相談されたのか。
○先生との連携、それから三〇〇名ぐらいの児童がいる中、このサマースクールへの参加は一〇〇名ぐらいということだったが、あとの二〇〇名の児童の方にはなにもないのだろうか。教えてほしい。

A 今治市清水公民館 主事 村越 孝洋

○立ち上げるときの公民館での話し合いで教頭先生にも来ていただき、学習会をしたということでも話し合いをした。学校の先生の許可も得て、地域の特色として教育のOBが非常に多いため学習会をやりたいということ、やらしていただいた。清水小学校ではボランティアで勉強を教えるということがないと聞いたため、公民館で、まだ二日間しか行っていないが行うことができないうということでも実施教育というかたちをとった。

Q 松山市垣生公民館 館長補佐 西村 恭子

○今治市清水公民館へ質問

○サマースクールでは子どもたちを公民館で迎えるということですが、行き帰りの安全についてはお子様とお母さん、それからお家のほうにおまかせなのか。

A 今治市清水公民館 主事 村越 孝洋

○行き帰りの安全については、正直今は通っていたく小学生の親御さんとかそういう方々にまかせっきりということになっている。今後の検討課題として当然安全面は大事なので、公民館としても重要事項として検討していきたい。

Q 今治市中央公民館 館長補佐 近藤 俊夫

○松山市垣生公民館へ質問

○行き帰りの安全の確保について、ちよつと勝手な想像をする例えは見守り隊のお年寄りがついてくるなどを想像したが、今後このようなボランティアの人材発掘を考えるとときに、こういった方がやっているかを教えていただきたい。

A 松山市垣生公民館 館長補佐 西村 恭子

○普通のとときには交通安全協会の方などが登校を見守っていらっしやるが、特にこういう夏休みの自主活動に近いような行事をしたときの安全面、特に継続して行うときはどうなのだろうか、ちよつと手薄になるのか自分のほうの事業のことも考えて気になる質問した。

助言者

○今治市清水公民館へ質問

○元教員の方が多くおられるということで、その方々が熱心に取り組むということだが、ちよつとお金の話で申し訳ないがその先生方へのお礼というのはどのようにされているのか。

A 今治市清水公民館 主事 村越 孝洋

○今治市の基準に基づいた支払方法で支払っている状況。

Q 司会者

○宇和島市遊子公民館へ質問

○段々畑で作るじゃがいもについて、石積みで段々畑が作られていると思うが、修復とかかなり急斜面で、かなりこまめに積まれていると思うが、そういったことは地区の方で、あるいは持ち主でされるのか。

A 宇和島市遊子公民館 主事 石城戸 美恵子

○持ち主たちで段畑守ろう会というNPO法人を立ち上げて、段畑を守って継承してこうとう活動をしている団体がある。それで、段畑の石積みも壊れたところを修復している。すごく高齢の方が多いが頑張っていてやっていたい。

Q 司会者

○水はどうしているのか。

A 宇和島市遊子公民館 館長 藤堂 定

○水は、昔ため池と違って直径一メートルくらいの井戸を各自で掘って、そこに水をためて確保している。

3 分科会テーマに対する研究協議

公民館の実践事例または取り組みについて等)

松山市雄郡公民館 館長 森田 雅幸

○先ほどテーマに即して、地域の特徴を活かしたプログラム開発とすることで、讃岐先生のご講演にもありましたように地域の特徴を發掘するというお話があった。そこで遊子の公民館の発表の方、遊子の独特な地理的条件で官民一体でやっておられる天までとどく段畑こういったのを活かした活動、公民館づくりをされており、まさにびったしだなどと思った。わたしどもも地域の特徴を活かした活動というのを、なかなか見つかりにくいけれどもなんとか工夫して正岡子規が俳句を詠みながら歩いた道なんかを芝居にしたりしてあれこれやっている。他の公民館にもこうした地域の特徴を發掘したような活動があれば教えてほしい。

○公民館活動はこれからますます必要性を増してくると思っているが、そのためには後継者が育たないといけない。誰がそれを担うのかというと今の青少年になるので、この青少年を公民館活動にどう取り入れているか、青少年を取り入れているの公民館活動をどのようにやっているか、参考になるような公民館活動があればお話しをいただきたい。

今治市老人クラブ連合会大三島支部連合 会長 赤尾 卓

○大三島公民館と関わって自主講座を二つ開設している。一つは日本総鎮守大山祇神社があるのでこの大山祇神社を中心として周辺を含めた文化的な遺産のボランティアガイドをしている。もう一つは、大三島は観光資源に恵まれており、大三島美術館をはじめところミュージアムなど文化的施設にも恵まれている。そういうところを十分にいかした大三島町の歴史教室を開いている。この大三島町の歴史教室は毎月第三木曜日に開いており、大三島をもっと知りたい、大三島の近くの島々三島五町だが大三島町の文化なり歴史をもっともっと勉強していきたい、そのニーズを受け平成

二十一度より自主的に大三島町歴史教室も開催している。やはり、住民が公民館と密接な連携のもとに関わっていくことも大切だと思っている。公民館側からのワンサイドな一方的な呼び掛けによるのではなくて、住民側からも公民館と連動した活動を行っているのがわたしは重要であるのではないかと考えている。

○もう一点は現在日本全体で言えることだが、人口減少に伴って少子高齢化が進展している世の中である。大三島町も例にもれず高齢化率五二・六%台を維持している。住民の半数が高齢者という町であるが、高齢者の中にも元気でパワフルに精力的に働かれている方もたくさんいるので、そういった方々を地域資源の中から發掘して活用していくのも一つの地域の活性化に寄与できるのではないかと考えている。老人クラブもこれからはますます出番が増えていく世の中になってきているのではないかと考えているので、みなさん、高齢者大いに頑張りましょうということ呼びかけたいと思う。

八幡浜市川之石地区公民館 主事 菊池 敏和

○小さな町で人口三千人をきってしまった町で、小学校も児童数百名ちよつとです。わたしたちたちの活動の中で一番課題になっているのが子どもたちにもふるさとを好きになつてほしい、いざれ出ていくかもしれないが、ふるさとを思い出してほしい、そういうことをできればと考え、極力子どもたちと一緒に公民館活動に精を込めている。

○一つに、二泊三日で大洲青年の家に子どもたちを連れて行って交流をするとか、社会福祉協議会と公民館で連携をしながら、社協がする公民館がするではなく、同じ舞台で同じ土俵に上がって地域全体を巻き込んでやっていこうというのを心がけている。

○わたしたちの町は小さな町だが、実は四国で二番目に銀行ができ、四国で一番最初に電灯が灯った町でもある。そして、四国で最初に紡績もできた町でもある。そのような歴史もあるので、歴史や文化を継承するというのも大切だと思っている。こういうことを公民館報でできるだけ毎月発刊している。その中で「ふるさと」の歴史と文化を訪ねたり」という新聞を作り、わたしたちのふる

さとのことを細かく伝えている。ちよつと住民の方には公民館報らしくない公民館報と言われているが、そんなことをしながら少しでも地域のことを地域の皆さんに知っていただき、そしてこれからも公民館活動と一緒に地域住民が町を好きになっていくということを、なかなか結果はでないが、心がけてやっている。

新居浜市船木公民館 館長 徳田 勝英

○わたしのところは人口が七千六百、そして世帯が三千五百です。地域を活かした活動というと、船木に池田池という池があり、これが愛媛県で満濃池に次ぐ二番目の池で周囲が約三キロあり、ここにみんなが集まっている。ジョギングとかマラソン大会とか小学生につきましてはその周囲を利用して花いっぱい運動を年二回やっている。小学校、中学校については、そこに他校区の生徒も受け入れ駅伝もやっている。あとは、池田池を背景にしているんな行事をやっているが、まずは夜太鼓まつり、また夕焼けに映えて非常に美しい景色が見える。それとかマンドリンコンサートを池を背景にして、小学生の金管バンドとか中学生の・・・、面白いのはよさこい踊りなどを取り入れて面白い行事をやっている。年間七、八回ですごい人が集まる。そういうのをやっている。

八幡浜市日土地区公民館 主事 鎌田 浩

○公民館が地元のJ.Aの一室の間借りということで館がない。その関係で外での行事イベントが、よそに比べたら多いかなと思う。主なイベントとしては五月の連休明けにみかんの花祭り、五月の末にホタル祭り、二月に農産物の品評会から発展したふるさと祭りというのが三大祭と呼んでいるが、それを行っている。八幡浜市の北部に位置する日土町というのは、みかんが主な農産物というか産業になっている。みかんの花祭りというのは町内に二〇〇mくらいの小高い山があり、その頂上に南予用水の干害設備のファームポイント、大きなタンクだがそれが頂上にあるもので、その周囲の広場を利用して山のてっぺんまで歩いていきそこで焼肉を食べる。非常にゆるいイベントではあるが、これが二十回全力で続けているので、子どもとして参加した方が大人になって子どもを連れてまたイベントに参加するという、田舎の子ども

のころの思い出をそのまま継承しているイベントがある。そのあと、ホタル祭りは三十回、ふるさと祭りは四十回続けている。イベントとしては田舎のイベントなので大したことはないが、続けることによってこの時期、子どものころにはこんなことがあったなということが続ける意味があるイベントを続けている。

○地域資源の活用ということ、これはまだ具体的には取り組んでいないが地元の日土小学校が国の重要文化財に指定された。これは、戦後の建物では四番目、木造建築では初めてということ、これを地域資源として何か利用していきたいと思っているが、いせん現実にはまだ使われている小学校なので、生徒たちもまだ授業を受けており、大々的にそこでイベントということができないので、いずれこれを地域の目玉としてできないかと考えている。

司会者

○実際、各公民館の取組の中での悩み事や行き詰まり、解決方法の事例があれば教えてほしい。

久万高原町公民館中津分館 館長 佐賀 繁志

○学校の活用ということがあるが、実は地域にあった中津小学校が平成一三年に閉校になった。それで平成元年に木造で作られた学校なのだが、これが地域の中心にあるのでどうにかして活用したいという思いがある中で実例としてその学校を、大人の音楽学校ということで改修をせずに施設を使って音楽を楽しめる施設ということ、録音スタジオを作ったりして泊りがけでの音楽活動を行っている。その中で盛んにこういうことをするというので地域の住民の人たちも学校に集まるようになった。ただ公民館は別施設であるので維持管理というのが公民館だけではなかなか大変な状況になっていて、それをどのように今後取り組んでいくかというのが一つの活用しながらの問題になっている。具体的にいろいろ使っていくとどうしても公民館だけでは支えきれないという部分ができてくるので、いまそれをどうするかということ、公民館の中で検討しているが、指定管理を受けるにしても受け入れの仕方もあるようになるだろうし、いまそういう悩みを持っている。中津大人の音楽学校のイベント関係でいろいろ音楽関係のイ

4 指導・助言

新居浜市地域交流センター 所長 越智保二

○まず、お二人の発表両公民館ともに素晴らしい発表をありがとうございます。宇和島の遊子のほうにはお魚の養殖に通ったことがございます。そのおかげで遊子地区のお魚も太ったことと思います。わたしの養殖というのは釣りが未熟なためにエサをとられ、またエサを放り投げて帰るとそれではなかなか太ったんじゃないかなという養殖です。釣りの上手な方に関してはかなりな釣果であったと思います。今でもかなり釣れていると思います。

○遊子は山と海の調和が非常によく水ヶ浦の段畑は四百年も前より高いし、続けられていますし、また重要な文化的景観の選定を受けてまして日本農村百景等にも選ばれているという、素晴らしい景観であります。また、ひとつひとつの石を積み上げてまして幅一メートルそして高さ一・五メートル前後の畑が斜面を添うように、また開墾されておりまして麓には数十世帯の家々が軒をひしめき合うように立ち並びまして山と海とに生活の糧を求めて懸命に生きる人々の元氣な姿が見られております。現代人が忘れかけている日本の元風景といいますが半農村漁業の営みが親から子へ子から孫へと受け継がれております。そこで、作られているじゃがいものほんとうにおいしいこと、またお魚の種類も多くおいしくてなにかもが素晴らしい印象です。

○前置きが長くなりましたが、遊子公民館なんかは本当に地域資源の活用と公民館の取組につきましても自然をうまく利用した行事と講座を行っておられるとまた地域の各種団体は当然のこと小学校、水産高校、漁協、JAえひめなど実行委員会を組織されておりまして、それぞれの得意分野で連携していくというのが素晴らしい

と思います。遊子地域全体の行事として開催されている。素晴らしい取り組みと思います。まったく違う分野の組織を一本化させることはやればやるほど非常に難しいものだと思いますし、連携をとるには多大なエネルギーが必要だったと思います。豊かな環境や先人が歩み育んできた歴史ある文化を生かしながら未来へつながる事業そしてより地域に根差した活動を今後とも期待したいと思います。ぜひとも頑張ってくださいと思います。

○公民館を使って子どもたちを育てていくサマースクールの取組をされた今治市清水公民館さんですが、今治市の中心から少し離れた田畑の多い地域で自然がいっぱいな素晴らしいところがございます。そんな環境の中、小学生を対象にした学習会、教員OBの方々の力を得て先生方が多くいるという強みを生かしてマンツーマンで学習しておられるということ、本当にうらやましいかぎりです。小学生の方々は夏休みの宿題ができて、また普段の勉強と違って楽しく勉強ができて非常に有意義だったと思います。指導者の方に関しましては本当に前向きに取り組まれておりまして、最後には大型スクリーンで映画大会をみんなで楽しまれたということとほんとうに素晴らしい行事だったと思います。子どもたちを公民館活動に取り込むことに関しましてはほんとうに親や、おじいちゃんおばあちゃん世代の協力を公民館活動としては得られやすくなりますし、地域でもって子どもを育て地域が大いに活性化される素晴らしい事例だったと思います。毎月定期的に行えないかと思案中のことですが、元教員の方々が多くおられる強みを生かしぜひ取り組んでいかれたらと思います。また自然を利用した活動、また地域の歴史等を学ぶにはもってこいのパイプではないかと思えますので、作物等も作ったりいろいろやり方はあるかと思えますので頑張ってもらえたらと思います。

1 分科会C「住民参画の推進と公民館活動の評価のあり方について」発表要旨

○松山市久米公民館運営審議会 委員長 仙波 英徳
「住民の主体性を育む安全・安心のまちづくり」

資料に基づき、下記項目を説明

- 1 一〇年事業のはじまりはNPO法人の提案と市場調査から
 - 2 課題を解決する実績が事業を進化させる
 - 3 実践により見えたもの
 - 4 住民の参画を育むために
- 西予市野村公民館 主事 清家 卓
「笑顔あふれる公民館活動をめざして！」
資料に基づき、下記項目を説明

- 1 西予市の概要
- 2 野村公民館の概要
- 3 野村公民館の取組
 - (1) 広報活動
 - (2) 子どもの体験学習
 - ア 通学合宿
 - イ のむらチャレンジ隊
 - (3) 地域活性化に関する取組
 - ア のむら元気発信隊
 - イ 地域おこし学習会
 - ウ 軽トラ市
- 4 住民参画への課題
 - (1) 意識改革
 - (2) サポーターの拡大
 - (3) 情報収集と発信
- 5 公民館の評価のあり方
 - (1) 事業の評価
 - ア アンケート
 - イ 反省会
 - ウ 公民館運営審議会
 - (2) 社会教育の評価
- 6 最後に

2 質疑応答

Q 東予教育事務所 社会教育課 課長 若田 彰
地域課題解決に取り組む公民館に期待しているのだが、一方で

予算や職員の削減等、公民館を取り巻く環境は厳しいものがある。一点は活動資金・財源をどのようにしているのか、参考までに教えてほしい。

もう一点、自ら企画立案する力を育成することが課題と言っていたが、企画段階から住民が参加する仕掛けがあるかないか、あれば参考までに教えていただきたい。

A 発表者（久米公民館）

館長に呼ばれて委員長になる前にPTAを十数年間やっており、そのときのPTA活動のテーマが「公民館に行こう」だった。PTAというのは社会教育団体であって、学校支援団体ではない。その社会教育団体が公民館と疎遠である。子どもの問題がこれだけ大きく取り上げられているのに、なぜPTAが公民館とスクラムを組まないのか。ですからPTAの方から公民館のドアを叩いて「私達と一緒に子育てをしてくれませんか？」というお願いに行こうというのがテーマで、全員公民館へ行ってもらった。

まずテーマとして「お金がいるものはいかん」「継続性がないものもいかん」そのかわり「人を集めたり、人を巻き込んだりするものやったらなんでも言ってこい」ということで、もう十二年運営審議委員の委員長をやらせていただいている。公民館にもお金はないので、私がやっている事業で公民館にお金をくださいと言った事業は一つもない。

でも事業にはお金がかかる。必要なものは助成金なり、どこかの団体なり、いろんな提案をし、お金をいただいて事業をしている。NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構の事務局もしている。NPO関係の助成金も必要なものがあれば申請している。そういう形で公民館事業を他の団体からのお金を入れながら回している。行政のお金は当てにならない。当てにならないところに頼るよりはお金があるところから頂いて、それを使いまわしている。

企画の段階は館長と自分でやっている。これに合った人は誰かなど考えてその人を呼び込んでいる。それからその人と一緒に組み込んでいく。事業を立ち上げて一〜二年すると自分は離れて次

の事業へ行き、その人にまわしてもらおう。

○ 発表者（野村公民館）

私は行政の人間なのですが、行政のお金は当てにならないというのは正しくその通りだと思ふ。社会教育の予算は年々削られていて、このチャレンジ隊においても消耗品として何か少し購入するくらいで、こういった事業にはお金は使っていません。助成金を利用したり、また漁協さんなども自ら助成金をとられて、「こういうことをしたいんだけど子どもをどうにかしてくれないか」ということで声をかけてくれてる。動いていたら、ありがたいことに周りから声がかかってくるという状態。

○ 発表者（久米公民館）

一点、お金をもらうだけではなく、久米公民館はいろいろな大学とも連携しています。東京大学、筑波大学、岡山大学、愛媛大学等。テーマによっては大学の研究費から使えるので、そこをリンクしながら事業を進めていく。大学の先生もまた別のネットワークを持っているので、「こういうことをしたいのだけでも、先生が無理やったら誰か紹介してくれ」とアメーバ風に広がっていく。向こうの研究フィールドとして久米を提供することによって授業を進めていくというやり方も一つある。

Q 宇和島市 三間公民館 主事 宮川 敦

久米公民館の発表を聞き、「これ運営審議委員さんの発表？」と感じ、さらに野村公民館の清家さんが「先生」と呼んでいて、何者なのかと思ってお聞きしたい。

そして久米公民館の取組をみると長期にわたって取り組んでいるようだが、運営審議委員さんで長期にわたって活動しているのが珍しいと感じた。

A 発表者（久米公民館）

○ 専業は松山市でタクシー会社をやっている。普通の人です。

Q 宇和島市 三間公民館 主事 宮川 敦

大学の活用と言われていたが、実際に「こういうことやっていますよ」など色々な情報は入るが、一歩踏み込むのに勇気がない。コツなどあれば教えていただきたい。

A 発表者（久米公民館）

一番いいのは愛媛大学。最初は二時間半くらい口説いた。やはり愛媛県なら、愛媛大学の門を叩くべき。愛媛大学も来年からは色々な地域フィールドを欲しがっているので、自分のところで「こういうフィールドでこういうビジョンがあるんだけど、お願ひできないか」と持ち込んだら、以前よりかは垣根は低いと思う。

Q 松山市 味生公民館 館長 井原 清彦

味生でも地域防災の方がよく公民館へ訪れて「地図をコピーしてくれ」と、マップ作りのためにコピーをよくするが、本当はパソコンで落としの方が書き込みもしやすく鮮明にできる。そのあたり、久米で工夫されていることがあるか教えていただきたい。

A 発表者（久米公民館）

久米では多少予算があつたときにまちづくりのプランナーの会社とマップ作りをした。今でもそこに発注している。情報を集めるのは地域で集めるが、それを綺麗に見せるためにはプロの手を借りた方がよい。長年の付き合いもあるもので、予算がないときは破格の値段でもらうこともある。それは、お金があるときに元の案を渡して、そこに書き加えるだけなので破格の値段でできている。印刷は松山市でもらっている。

Q 今治市 立花地区カルチャーセンター 伊藤

どういった部分で住民参加と参画の違いを感じているのか、基準を教えてください。

A 発表者（野村公民館）

参加型でやっただけでは地域力には繋がらないと思う。住民の方に企画段階から入っていただけるよう、これからしていきたいと思う。それが参画だと思う。

○ 発表者（久米公民館）

社会教育としてほしいのは最終形が参画。「ひとりひとりが事業を組んでいく」それがまちを作ることに繋がると思う。最初から参画者は逆に怪しい、危ない。一つの場合ができたなら、その場を見て「私はこの場でこんなことをしたい」という風に色々思いを持った人がくる。話を聞いてそれが良さそうなら「それいいね」

とひとまずこちらがフォロワーになる。「いいのだけでも、やる人がいないから、あなたがやらないかんよ」と言う。「私が思いついたことやから私がやります」と言ってくれる。こちらから募集するのが参加型で、住民の方から「こういうことをしたい」と発案者がいたらその発案者に全部任せる。これが参画者を生む次のステップだと思う。

そういう小さい場でも二人三人でもいいから、そういう経験をした人を公民館が受け取って事業を組み立てていく。三人の集団が一〇個あれば、それだけで三〇人の参画者となる。

本当はコアメンバーが何人育ったかというのを評価基準にしていけば、社会教育の評価としても行政は納得すると思う。

3 分科会テーマに対する研究協議

○新居浜市高津公民館 館長 柴田 晋八郎

高津でも課題がたくさんある。後継者の問題、参加率の問題、また安全なまちづくりはできているのか等。そういうものも含めて、高津まちづくり構想として八つの部門を作った。現在、その町づくり構想に基づいて実施計画を作っている。その実施計画の中で、中高生の参画の問題がでてきている。今、中学生との関わりは学校を通じており、高校生は地元ボランティアの団体と直接やり取りをしながら色々な事業に参画をしてもらっているもつと他に中高生が参画できるようなシステムがあれば教えていただきたい。

○発表者(野村公民館)

中学生になると部活が始まり、ますます地域活動等に縁遠くなる。その中からコアな子どもをみつきたい。大きなイベント(マラソン大会など)で、中学校に「全員ボランティアで参加してもらえないか」と打診して、地域活動に半強制的に引っ張ってくるということをしている。地元の青年団が盆踊り大会に中学生を募っており、毎年三〇人ほどの中学生がボランティアで参加してくれている。ただ、まだ参画にはつながっていないため、これから子どもたちを引き込んでいき参画に繋げたい。

○発表者(久米公民館)

中高生の問題は久米も同じ。ただ、マップづくりの最終形は「新一年生のために地域が作ったマップ」というコンセプトにしている。そうすると、新一年生のために作る事業なので、学校も乗ってこざるをえない。こういった仕掛けで徐々に参加してもらおうにしている。

公民館は公民のための館なので、当然地域の担い手の子供達も公民館に来てもらわないといけないし、来る癖をつけることによつてその子が大人になったときに地域を作ってくれると思う。待っていても小中高生は来ないので、来ざるをえないような事業を公民館が仕掛けることによつてその道が開けるのではないと思う。

子供の頃に「地域に育てられた」という思いがあれば、大人になつたときに地域を作ってくれる側になるのではないか。

○助言者

(高津公民館区の学校数…小学校一、中学校一、高校一) 比較的公民館と学校が連携を取りやすいのではないと思う。町の催しがあるときには、やはり中学生のボランティアがほしいのでその都度募集をかける。地域の方が小中学生のボランティアを集めるのは難しいので、子どもに関することは学校との関係を良好に保つておいて、連携をしていくのが良いのではないか。理想的なのは地域の大人が地域の子どもを連れてくるのがいいが、難しい。公民館区にある学校と、「学校」というよりは校長先生とお話をして、協力してもらおう方がやりやすいと思う。

○司会者

アンケートの住民のニーズの取り方。久米公民館では実際にアンケートをしたことだが、どのような対象にアンケートをして、どう活かしていくのか。

○久米公民館

アンケートでも色々な種類がある。事業が良かった悪かったという〇×のアンケートはいくら取っても意味がない(やるかやらなしかしが出てこない)。

大学とリンクしながら、このアンケートの目的は何のためにす

るのか、来年度この事業をどう変えていったらいいのかというアンケートと、そのアンケートを受けた事業評価委員をリンクさせながらアンケートをしている。

例をあげると、通学合宿の参加者にアンケートをとる。内容は「良かった・来年も来たい」などの質問もあるが、メインは自分でコメントを書いてもらう（参加してどう思ったか等）。参加者全員の単語を全て拾い出して、その単語の出でくる回数によって何を思ったかフリーアンケートであぶり出していく。そうすると「ケンカが多かった」とか「仲良くなった」とか単語のパワーセンテージによって、参加者が何を感じてくれたのかわかる。

アンケートも目的によって色々な手法があると思うので、趣旨、狙いをはっきりさせて最適なアンケートをする。

○松山市 味生公民館 館長 井原 清彦

味生では大きいイベントや総合運動会の後は必ず分館長会議を開いて、評価をいただく。分館長では細かな事までわからないので、その後実際に携わっていただいた各分館の体育部長を集めてもう一つ反省会を設けて、そこで今年の運動会はどうであったか、運営はどうであったか、今後どういうふうにしてほしいか等を協議して、簡単なPDCAをまわして翌年の改善にしている。

○八幡浜市 大島地区公民館 館長 兵頭 勝雄

大島では学校が閉校になり児童がいないので、公民館の活動も高齢者を対象とした事業をしている。今後の大島地区のあり方がどうなのか学んで帰りたい。

○野村公民館（発表者）

高齢者教室の関係は、野村では老人クラブは活発に活動しているが、学習の面では全く活動できていない状態だった。その中で健康寿命を伸ばさないといけないという意見があり、名誉院長をお招きし、実技講演をしていただいた。

野村も学校五校が統合し、公民館六館中四館が学校がない公民館となっている。今後の活動内容については色々悩んでいるところ。

○発表者（久米公民館）

エリアは大きな問題。通常は公民館区で一事業だが、久米の防災マップの関係は公民館区でも意味がない。小学校校区で顔が見える範囲で行わないと防災事業を行っても効果がないので、久米では小学校校区単位で順番に一年に一学校ずつまわっている。事業目的によって、公民館区を自由に変えていく必要があると思う。

地域に小学校がなくなる状態はやがてくる。その中で二つ三つの公民館が合わさったときには子どもがいるかもしれない。

北久米小学校の防災事業は桑原公民館と久米公民館の共同事業でしている。来年の福音小学校は四つの公民館がまたがっている事業となる。

大人の都合で勝手に小学校校区と公民館区、社会福祉協議会、警察等色々な行政の縦割りで住民のエリアが変わっている。そこで、住民がどうすればいいのかは公民館が議論していかなければいけない。

○今治市今治公民館 館長 大塚 英計

私のいる公民館も四つの小学校が統合し、公民館区から小学校がなくなつた。それまで小学校とタイアップした事業がたくさんあったが全て消えた。かつ、小学校の跡地が市の駐車場に変わった。ということと、盆踊りも運動会もできない、何もかも事業が吹っ飛んでしまった。昨年の事業数から半分以下に減ってしまった、協議した結果、昨年までは市で行っていた敬老会を公民館区（行った場所は旧小学校体育館）で行った。

文化祭も今までは小学校の出席があったが、今年からは地域住民だけで行わなければならない。小学校がないと事業が成り立たなくなる。

今、地域にある愛護班との連携ができないものか模索しているところである。

○司会

例えば野村チャレンジ隊の協力者も最初はぼちぼちだったとありましたが、その協力者はどういった方々で、今も活動されているのか？

○野村公民館（発表者）

野村チャレンジ隊は、最初館長に「こういったことをしたい」とお話しして、知り合いを伝って事業を行い、そういった内容を公民館報に載せていたら「私こういったことがしたい・できる」といった声掛けがあり、今まで続けてできている。

小学校がなくなったということ、地元の方々の「子どもたちの声が聞けなくなったのは寂しい」という声もあり、小学校がなくなった地域の保護者の方が子どもたちを中心とした事業を企画したりしている地区もある。運動会についても以前は地区と学校の運動会が一緒に行われていたが、「学校がなくなった地区でも運動会をしないと」ということで、社会体育施設として残っている運動場で今年も実施した。

愛護班や地域の方々が連携して事業を展開している。

○（所属 名前 聞き取り出来ず）

公民館難民（高齢者や公民館に参加できなくなってきた方々の参加の推進、参画について教えていただきたい）。

○公民館難民について

公民館には「見る・聞く・知る・役に立つ」の四つの構造がある。公民館が何をしているか知らないと思うしよもない。よって、知らせる事業をしないといけない。情報提供事業や相談事業が第一。その次に学習機会の提供（こんな事業、こんなイベントをしている等）。そしてそれに参加してもらおう。その次は自主的サークルの育成。これは参画になる。企画運営は全部団体が係る。その次に良いのは、身につけた知識や知恵、経験をどういう風に社会的に還元するかということ。この四つの段階があるということとを前提に置き、評価もこの四つのレベルで見ないといけないのではないかと思う。

難民の問題については、まず公民館がどこにあるか知らない人がたくさんいる。何をしているのか、覗いたこともない人もいます。なので、情報提供をどうするかが重要。

届ける活動（出前講座など）をしないと公民館難民は減らないと思う。

それから、地域の方が持っている知識を引き出さないといけない。老人からもその地域の伝統や文化を引き出しておかないと、地域に何があったかわからなくなる。昔、子どもはきてなかったが、今は子どもも来はじめた。その子どもをメインにして、親や地域の方々を連れてくる仕組みにしないと難民は減らない。

○発表者（久米公民館）

松山市も広くて、統廃合になる学校が日浦までできています。そういうときに地域行事と公民館がどう適合するかという問題を話した。日浦としては統合した学校に行っている子どもでも日浦の子という風にならないと地域が成り立たない。ピンチはこの公民館にもくる。そのピンチのときこそ地域住民が共通課題を見つけやすい。共通課題があると知恵が出てくる。地域課題が共通しているときとまりやすいので、ピンチがチャンスになる。

○司会

公民館に対する依存度の高まり、公民館難民について

○発表者（野村公民館）

初めての時は「公民館の仕事は団体の事務局かな」と思っていた。老人クラブであれ催事の担当もするし、事業報告も会計報告も私がしている状態。やはり団体など地域のこととは地域で考えて行かなければならないと思う。厳しい言い方ではあるが、少し突き放しながら一緒に取り組んでいきましょうということによっていくと、それぞれ経験もある方なのでできる。「自分たちにはできない」という思い込みがあるので、徐々に解消していきながら取り組みたい。

その中で今年度、自治振興組織が生まれ変わり、三十代四十代のリーダーが「自分たちの地域は自分たちでやっていこう」ということで新しい風が生まれている。

4 指導・助言

○まず評価については話の中にもたくさんできてきたので省略させていただきますが、館長や主事の自己評価も大切にしていただきたいと思う。

○三点ほど。一つ目は「地域住民の居場所」。二つ目は「活性化と

マンネリ化」。二つ目が「子どもたちに心のふるさとを」。

まず公民館は地域住民の居場所であるということだが、平成二十三年に松山中四国の公民館の大会があった時に講師の先生がある大学の建築関係の学生が東日本大震災の後、三陸町の方にボランティアに行った話をしてくれた。被災者の方に「私たちは建築関係の学生ですが、今何をしてほしいですか？」と聞くと真っ先に出したのが「小さくてもいいから公民館を建ててくれ」だった。これが本当の原点だな、まずは拠り所・居場所が必要なのだなと感じた。公民館は皆さんにとっていつでも行ける居場所であってほしいと感じている。

○二つ目に活性化とマンネリ化について、久米公民館の中に防災の観点を新しく入れたことによって新たな事業ができたといった新しい目標ができると、それに向かって皆さんが目標を共有化すれば、一緒に協働の実践ができるという意味で活性化されるのではないかと思う。そのためには、町づくりに必要な人としてよく言われるのが「若者・よそ者・ばか者」である。ばか者という言葉は悪いが、「一途に一つのことをやっていく」そういうタイプの人を仲間連れ込んでいくことによって新しい視点の意見もでてくるのではないかと思う。そういう意味では子どもが参画するというのは大変良いことではないかと思う。伝統的な行事や年中行事的なものは、マンネリ化を恐れずに「マンネリがどうした」という開き直った気持ちで、新たな人を巻き込むことによって自然と活性化して行くのではないかと感じている。野村公民館や久米公民館で行っている通学合宿などは特に年中行事化してほしいと思う。小学四年と五年には一〇歳の壁というのがある。いわゆる思春期の入り口に入ることは色々な課題を持ってその年令を乗り越えていくわけだが、そのときに学校だけでなく地域の皆さんが関わっていくことで、子どもたちの感性が磨かれる体験をたくさんさせてほしいと思う。

○最後に、良いふるさと良い伝統を残していけるのかどうか公民館の課題。子どもというのは体全体五感で感じているので、匂いを嗅いだり、味を知ったり、肌で感じたり、そういうものを全て

理屈ではなく五感で感じてしまう。一枚写真を撮ったような形でも脳に焼き付いてしまう。そういった原風景を持った子どもは非常に生き生きとしていて、少々のことではへこたれない。いわゆる生きる力を持っている。そういう意味で、大人が公民館でワイワイ楽しく賑やかにしていると、その姿そのものを子どもたちが見ている。「集う・繋ぐ・学ぶ」とあるが、繋ぐ意味合いでは水平方向の横の広がりや繋いでいく面と、縦の時系列で繋いでいく縦に繋ぐということは次の世代へつなげていくということ。そういう公民館には潜在力があるかなと思っている。

地域住民の居場所となる公民館になること、新たな目標作りで活性化ということ、活動の中で子どもたちに心のふるさとを作ってあげてほしい。

分科会D「学校支援活動や学社融合、また青少年の体験活動を推進する公民館活動について」

1 発表要旨

○「地域をつないで ～佐田岬一三里見て歩き～」

伊方町中央公民館 主任 篠澤 隆之

1 伊方町及び中央公民館の概要

(1) 伊方町について

(2) 中央公民館について

2 佐田岬一三里見て歩き

(1) 事業の概要

(2) 事業立ち上げの経緯

(3) 事業実施までのスケジュール

3 おわりに

○「地域の人とつくる公民館活動」

四国中央市中曾根公民館 主事 大西 貴之

1 地域の概要

2 公民館の概要

3 公民館の事業

(1) 菜の花・翠波ハイキング（四月下旬）

- (2) 中曽根こども相撲大会（五月五日）
- (3) 町民運動会（五月上旬中旬）
- (4) 異世代交流そうめん流し（七月下旬）
- (5) パン屋さんごっこ（十月）
- (6) 小学生軽スポーツ大会（二月中旬）
- (7) こどもスポーツ教室（新規）

4 これから

2 質疑応答

- Q 大洲市久米公民館 館長 鳴滝 久照
 - 柑橘の耕作放棄地で中高生が体験活動しながら支援しているよ
うだが、学校主体の支援なのか公民館主体の支援なのか。
 - 佐田岬一三里見て歩きでの交通面や安全面についてはどうか。
 - A 伊方町中央公民館 主任 篠澤 隆之
 - 耕作放棄地での体験活動は公民館主催ではない。
 - 佐田岬一三里見て歩きの交通面について、安全面は大丈夫と思
う。参加者が小学生なので、スタッフを要所に配置し、安全第一
に考えて実施している。
 - Q 伊予市公民館運営審議会委員 岡本 正満
 - 体育協会と体育振興協議会の役割の違いはあるのか。
 - A 四国中央市中曽根公民館 主事 大西 貴之
 - 市に体育協会、各地区に体育振興協議会があり、体育振興協議
会は体育協会の下部組織と思ってもらえればよいと思います。
 - Q 大洲市今坊公民館 館長 久保 貴美男
 - 学校側との連携という面で、学校との話し合いの場のようなも
のはあるのか。
 - A 四国中央市中曽根公民館 主事 大西 貴之
 - 公民館運営審議員の中に、校長先生、園長先生に入って頂いて
おり、校長先生には各事業に参加して頂いております。校長先生
以外の先生も事業のスケジュールをある程度は把握していると思
うので、参加してもらえればうれしいのですが、忙しい仕事のた
め、難しいのかなと思います。
- ### 3 分科会テーマに対する研究協議
- 西予市田之筋公民館 主事 西村 昌之
 - 通学合宿でのもらい湯、お風呂を借りるという形で地域とふれ
あっている。また、緑の少年団といった緑化関係の団体での一泊
研修で、いろんな体験活動をしている。
 - 小学校は公民館の隣にあるため、連携が取れているが、中学校
に入った途端、関係が切れるという状況であり、小学校を卒業し
た後の関わり方が課題となっている。
 - 西条市三芳公民館 館長 森山 哲朗
 - 三小学校の子どもたちが中学校に入って活動がスムーズにい
くようにと三公民館で話し合い、学校支援の意味合いも込めて三
公民館合同での山登りを実施した。一緒に山に登って交流を深め、
ある程度の間関係も構築することができ、好評であった。
 - 宇和島市立吉田公民館 館長 井上 教
 - 地域の伝統文化を守るということで、亥の子大会を実施してい
る。各地域の愛護班活動を通じて四〇年以上続いている。
 - 緑の広場という三年生～五年生を対象とした体験活動を実施し
ている。
 - 学校との関係としては、公民館運営審議会に小中学校の校長先
生に出席して頂き、理解して頂いている。
 - 中学校は部活動の関係で参加が少ないのが悩みである。
 - 分科会のテーマが学社融合であるのに参加者に学校関係者の方
がいないので、来年度からは学校の先生等にも参加して頂けるよ
うお願いしたい。
- 東温市川内公民館 主任 田井 淳一
 - 分科会のテーマが青少年の体験活動を推進する公民館活動とい
うことで、東温市の野外活動研修センターを愛護班や子ども会で
の体験活動の場として各公民館の皆さんにも利用して頂けたらと
思いますので、よろしくお願ひします。
 - 野外活動研修センターのことを知って頂き、利用して頂くため、
市内の企業等にも案内しているが、なかなか利用して頂けていな
い状況であり、いかに皆に周知できるかが課題となっている。
 - 野外活動研修センターをまとまって利用して頂くには、やはり

学校の利用が不可欠であるため、学校との連携を取っていただければと思います。

西条市大町公民館 主事 秋月 美砂

○ 夏休みのチャレンジ教室とか放課後子ども教室を公民館主体で行っている。夏休みの子どもチャレンジでは、親子研修旅行を毎年計画しているが、子どもたちを危ないところへは連れて行けないということ、研修先に悩んでいる。

○ 東温市の野外活動研修センターでは、どのようなことができるのか教えて頂けたらと思います。

東温市川内公民館 主任 田井 淳一

○ 野外活動研修センターは、まだ一年足らずの施設であり、環境が整っていません。構想としては、地元の方にご協力頂いて竹細工の製作とか魚のつかみ取り大会などができればと思っています。

愛媛県東予教育事務所 社会教育課 社会教育主事 柳瀬 剛

○ 今年度、文科省の指定を受けて子ども体験活動の支援事業を新居浜市大生院公民館に実施して頂いております。学校ではさせてあげられないけれども、地域の人たち、いろんな団体が繋がることで何かできることはないかということで、三回の体験活動を計画しております。一回目は川での体験ということで、魚のつかみ取りをしたり、竹筒ごはんを食べたりしました。学校では川に行ったら危ないので、川では遊ぶなど言っているのですが、おもいっきり川で遊ぶ体験をしました。二回目は山での体験ということで、山に行つて木を切り倒しました。学校で森林の大切さを学んでいますが、実際に木を切り倒すことなど体験できません。そこで公民館を中心に集まった地域の人たちが子どもたちに木を切り倒すという体験をさせてくれました。やはり教室では学ぶことのできないことを公民館中心の事業でやっていける、それが正に学校を支援して頂いているなという感覚になると思います。また、いろんな地域に諸団体があると思いますが、それぞれの団体がそれぞれに活動していることが多く、それらの団体が公民館を中心に、また子どもを中心に繋がることにより、いろんな可能性があらなと感じています。

新居浜市大生院公民館 主事補 大元 好美

○ 夏休みの放課後子ども教室では毎日午前中違う行事を実施している。

○ 各行事の参加を募る方法としてメールや電話を利用している。放課後子ども教室の子どもたちに資料を持って帰って頂いて参加を募っても参加者がなかなかいないので、個別にメールを送らせて頂いて参加を募っている。学校を通じてプリントを配布して参加を募っても参加者がなかなか集まらないので、放課後子ども教室の保護者の方にメールと電話で連絡している。直接頼むと、その日は予定が無いので参加してもよいという返事があり、実際に参加された方からは楽しくて良かったという感想を頂いている。

○ 文科省の指定を受けて東予教育事務所と一緒に実施している子ども体験活動の支援事業は三回目の次回が最後で、十二月にウォークラリーを計画している。

4 指導・助言

八幡浜市日土地区公民館 館長 宇都宮 均

○ 分科会Dのテーマである学校支援活動や学社融合、これにつきましては今後も考えていかなければいけないものではないかと思えます。また、青少年の体験活動を推進する公民館活動でありますが、伊方町中央公民館の篠澤さん、四国中央市中曾根公民館の大西さん、大変すばらしい発表ご苦労様でした。

○ 伊方町中央公民館の「地域をつないで、佐田岬一三里見て歩き」の発表であります。海と山の自然が豊かな町を生かし、仲間を思いやる心や助け合いの心を育て、地域の友達との交流を深めることは、人口減が厳しさを増す中、地域のリーダーを育成する事業として今後も認められていくことと思います。また、それぞれの学校、友達との交流、岬半島の自然に触れることで地域意識が強まり、人口減の歯止めとなることを願いたいと思います。この事業を終えて反省会を持たれ、次に繋がられていることとでありますが、人の意見を聴くということは一歩大事なことではないかと思えますので、これからも続けて頂けたらと思えます。地域仲間同士でお互いを思いやる心や連帯感を今以上に努めて頂

きたい。「伊方町は一つ」を合言葉に、学校と地域が連携し、田舎の魅力をアピールして人口減の歯止めの一つにして頂けたらと思っております。学校との関わりでございますが、これからの時代を作るのは子どもたち、その子どもたちとの繋がりを大事にして各地域で人口減の歯止めの一つにも繋げて欲しいなと思っております。この佐田岬一三里見て歩きは一泊二日ということで、距離的にも長い、また、二日間歩くというのは大変でありますので、交通面については今後も十分配慮して頂いて事故のないようなイベントにして頂けたらと思います。

○ 四国中央市中曾根公民館の「地域の人とつくる公民館活動」の発表であります、他の地域と違った点があると思います。交通面や商業施設増加などの生活利便性向上もあり、若年者を中心とした転入者が多いという報告がありました、転入者が多いというのは私たちの地域にとっては本当に羨ましいという感じがしております。今後こういう方を中心に各地域を盛り上げて、地域の活動を盛り上げて頂ければと思っております。学校、地域、各種団体に対する連携みたいな活動は、絆を深めるうえでは素晴らしいことであると思います。東北福島等の震災で「絆」「絆」という言葉、よく言われましたけれども、やはり心と心の繋がりが、これが一番大事ではなからうかと思っております、この「絆」どの地域でも一番大事にして頂きたいなと思っております。

○ 翠波高原の登山道を通して登るハイキングでは、幼児やお年寄りの参加者がいるということで、助け合いの気持ちが生まれたと思っております、是非今後もずっと続けて頂き、地域の絆を深めて頂けたらと思っております。

○ 町民運動会であります、子どもと地域の大人が触れ合う機会となっていて報告がありました、実は私どもの公民館でも町民運動会を行っております。小学校の児童数が少ないということもあり、小学校が午前中運動会、午後は町民運動会という形ですと行っております。そこで学校の先生、子どもとの繋がりを持っておりますが、この運動会を通しては激しい運動と言いますか、消毒のホースを女性が上手く巻いていくといった競技等、い

ろんな集落対抗種目の競技指導もしてありましたけれども、ここ数年は小さい子どもさんからお年寄りまで参加できるようにということ、二〇種目くらいの対抗し易い競技を中心にして運動会に何百人という参加を得ている次第です。それとこの運動会では他所に移られた子どもさんが帰って来られて宝ひろいと言いますか、小さい小学生までの子どもさんですが、一〇人くらいの子どもさんが出られたことがあります。こんなにこの地域に子どもが居るのかというくらいで、それだけ他所から帰って来られて町民運動会を楽しみにされているということは、こういうことは続けていかなければと思っておりますので、是非この運動会を通して地域との繋がりを持って頂けたらと思います。

○ こども相撲についても、やはり小学生の子どもさんも昔と違って自然とのふれあいと言いますか、そういうことが少なくなってきたので、こういう裸の付き合いと言いますか、そういうのも良いのではないかなと思っております、こういう点については是非続けて欲しいなと思っております。

○ 若い世代の参加が少ないという報告がありました、どんな事業をするにしてもスタッフの人員が不可欠ではないかと思っております。公民館で役員さんが計画をされても、実際事業がスタートしたら周りのスタッフの人の手伝いがなければ事業が前に向いて進みませんので、是非スタッフとの協同と言いますか、そこには信頼関係も生まれてくると思いますので、どこの地区でも同じかと思えますけれども、各地域で繋がりを持って公民館に対して役員のお願に行ったら、OK手伝ってあげるよというような雰囲気づくり、また、子どもさんとの繋がりを持って公民館活動の輪を広げて頂けたらと思っております。

分科会E「家庭教育を支援する公民館活動について」

1 発表要旨

○ 松前町 西公民館 係長 中村慶彦

1 松前町と西公民館の概要

2 公民館活動の内容について

(1) 愛護班活動と連携した子ども体験活動

ア キャンプ・遠足(七月頃)

イ 遊びゲーション松前っこ(十一月)

(2) 育成会の活動

ア 親子スポーツ大会

イ 三世代交流もちつき大会

(3) 放課後子ども教室

3 おわりに

○愛南町 長月公民館 主事 尾上 雅巳

1 地域の概要

2 家庭教育を支援する公民館活動

(1) 世代交流しめ縄づくり

(2) 長月夏まつり

ア 主なイベント

(3) 長月駅伝大会

(4) 長月夢の森

ア これまでに作った主な物

イ その他の活動

3 まほろばの里を目指して

2 質疑応答

Q 愛南町中央公民館 主事 谷岡 誠司

放課後子供教室について、愛南町でも今後取り組んで行きたいと思っている。西公民館では、一・二年生四三名を受け入れているとの事だが、どのような方がコーディネーターとして活躍しているのか。また、曜日や日数についてお聞かせ願いたい。

A 松前町 西公民館 係長 中村慶彦

コーディネーターは、学校との連携を考え松前校区の小学校長を経験された方にまずお願いしている。週に一回、金曜日に開催している。

Q 西予市中央公民館 主事 中村 忠史

公民館、市役所が子供教室の受け入れ等についてどのように関わっているのか。

A 松前町 西公民館 係長 中村 慶彦

補助については、申請・請求等、コーディネーターと実行委員との会合の設定・まとめ。計画等はコーディネーターにお任せして一年間に約二六回、多い時は二九回。備品のセット・会場の設営は職員が行っている。備品は予算化して町と折衝し必要な物は購入。子供教室の料金としては徴収していない。

Q 西条市庄内公民館 主任主事 石原 善久

庄内公民館でも六月から月一回で始めた。四三名の受け入れ対象の学校は、どのくらいの規模かお聞きしたい。

A 松前町 西公民館 係長 中村 慶彦

松前小学校は、全校生徒約六五〇名。一年生が六クラス二年生が五クラス、その中から一年生が約三〇名と二年生が十何名となっている。

指導方法は、コーディネーターが一名、学習指導員四名が毎回出席。安全管理員約四〇名を班分けし一日四〜五名が出席。四三名を一〇班に分け、各班一人ずつについて指導をしている。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

金曜日の何時から何時まで実施しているか。

A 松前町 西公民館 係長 中村 慶彦

授業の終わる二時四〇分頃迎えに行き、西公民館に連れて帰り三時過ぎからメニューをこなし四時半までに終了する。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

各地区で行っている子供教室でのやり方について、発表願いたい。

A 西条市庄内公民館 主任主事 石原 善久

今年度から開始。月一回第四土曜日の午前二時から一二時。学校の先生のOB・地域の方が軸となっている。運営委員はなし。活動内容は、八丁とんぼの観察会・夏休みどきどき教室(料理・工作)・ウォーキング等を行った。今後、読み聞かせ・お茶教室等も検討中。掲載以外のプログラム等も参考にお聞かせ願いたい。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

教室では、家庭でできない体験もあり事例が大変参考になるの

で、分科会後半で深く協議したい。その他あれば質問願いたい。

Q 松前町 公民館運営審議会 副委員長 升田 須賀子

夢の森の創造的な遊び場作りに大変感心した。何点かお伺いしたい。ここへは誰が遊びに来てよいのか。また、この場に來ない子達の居場所にもなっているのか。小中高校生の居場所がどういうふうになっているのか。遊具の耐久性・危険性についてはどのような対応か。

A 松前町 西公民館 係長 中村 慶彦

誰が利用しても良いが、現在は長月の子供達のみ。耐久性は四年目なので何とも言えないが、ロープ・ワイヤー交換等のメンテナンスは主に地域の方が行っている。子供達は、小中学校までは公民館事業に参加。今後、夢の森に関わった子供達が高校生になつて参加してくれるのではないかと期待している。

Q 松前町北公民館 館長 和田 由美子

森は友達事業がきっかけのようだが、物・事・お金のバランスが上手くいかないと思う。夢の森は、未来性があるように思えるが、補助金がなくなった後の費用について、予算化が継続しているのかお伺いしたい。

A 松前町 西公民館 係長 中村 慶彦

森は友達事業(二年)を利用した。今も補助金が少し出ている。創意工夫・勢いで乗り越えて、子供達が望めばそれに応えたい。

Q 愛南町中央公民館 主事 谷岡 誠司

松前公民館では、世代間交流・伝統文化の継承に取り組んでおられるが、以前、愛南町では世代間交流活動が少なかつた為か、私は注連縄を作る事が出来ない。四〇〇五〇代に伝統文化継承が上手く出来ていないのかと思う。長月では、継承していく仕組みが出来ているのかお伺いしたい。

A 愛南町 長月公民館 主事 尾上 雅巳

現在は、親世代には引き継いでいないように思う。事業を続けて行く為にも、今後、高齢者が元気なうちに指導してもらって親世代に引継ぐ機会を設ける事が出来たらよいと思う。

Q 西条市中央公民館 主任主事 合田陽造

自主的に遊び場を作ったりする事業の際、怪我等に対する保険の対応についてお伺いしたい。

A 愛南町 長月公民館 主事 尾上 雅巳

公民館事業外なので、現在の保険については把握していない。今の処怪我をした子供がいないので困らなかったが、今後考えていかなければならないと思う。

3 分科会テーマに対する研究協議

○宇和島市生涯学習課 課長補佐 富田 満久

子供に対する家庭教育を支援する事例の紹介を頂いたが、しつけ教室や育児相談等親側を支援する活動をされている地区があればお教え願いたい。

○大洲市 平公民館 加洲 與理雄

子育て学習会を開いたり、子育て学習グループに子供との接し方を教えてもらったりしている。親同士が悩みを話し、安心したという声も聞く。公民館が繋いでいけたらと思う。

○今治市 立花地区民生児童委員協議会 副会長 鴨川 真由美

立花校区では、就学前の子がいる親を対象に月二回一時間半程度『ママのしゃべり場』を開いている。子供はスタッフがみて、お母さんは友達を作る等母親に対する支援を行っている。

○愛南町 中央公民館 主事 谷岡 誠司

公民館から保護者に向けての学習活動は行っていない。生涯学習課では、保育士OB・教員OB等で子育て応援グループを作り、不安や悩みの相談に乗れる体制にしている。催しや勉強会に向向き、保護者と打ち解ける中で悩みを聞き何らかの手助けが出来ないかという取組みをしている。今後、こういう方が公民館でコーディネーターとして活躍出来るのではないかと思っている。

○西条市 社会教育課 係長 平塚英敏

西条市では、子育て支援という事で地域の方等のご協力を得て通学合宿を公民館で実施。市から八万円の補助、一〇館程度で推移している。今後、働きかけをして増やしていきたい。

○鬼北町 泉公民館 主事 木口 譲

泉公民館では、岩谷遺跡にちなんで古代米を栽培し稲木に干し

脱穀。二学期末に小学生が、老人クラブにご指導いただきその藁を使って注連縄作りをしている。現在、子育て支援の様な事業は実施していないが、今後視野に入れて活動していきたいと思う。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

公民館から家庭への働きかけというのは、実際難しいかと思う。子供達は公民館に馴染みがあるが、保護者世代の出入りは少ない。壬生川では、放課後子供教室を始めて一〇年位になるが、安全性を高める為低学年と高学年の下校時間の調整を行う形で始めた。これだけでも子供達の安全を守ると一つの方法かと思う。学校で行っていた時は主に宿題を、公民館に移ってからは毎週土曜日にサークル・体育指導員等のグループに内容をお任せしている。子供は楽しんでるが、子供教室に一年間皆勤で来れるというのも、家庭教育を考えると如何なものかと思う。参考の為、事業の内容や取組み・苦労話を紹介願いたい。

○松前町 公民館運営審議会 委員 仲島 政夫

私は、子供教室の委員をしている。定員を大幅に超えているが、外される子供の精神的負担を考えた話し合いの結果、全員受け入れた。子供が多い分委員さんには負担をかけている。保護者が迎えに来る事を条件に募集し、必ず親が来るまで誰かが残っている。運営の問題として、高齢化等で後継者が中々いない。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

金曜日の開催だが、どのような年代の方にご指導頂いてるのか。

○松前町 公民館運営審議会 委員 仲島 政夫

現役の親は無理なので、仕事リタイヤ組の元気な人が中心。西公民館のメニューを発表するので参考にして頂いたら。七夕飾り・凧作り・凧上げ・炊飯器ケーキ・抹茶席・風船・軽スポーツ・科身体験・箱鉄砲・折り紙・土笛・生け花等々。

Q 松前町 公民館運営審議会 副委員長 升田 須賀子

以前、子育て講座を開いていた。当時父母の参加は少なく、祖父母が孫を育てているからと勉強をしに来ていた。若い母親に話を聞いたが、学んで子を育ててみようというのは難しいのかと思った。家庭教育を大事にしたいと、今「子育て親育ち」を年間

六回程親子で参加してもらっている。参加者から、「木工遊びで父親のすごい所を発見して尊敬し家庭の中が明るくなった。」とか、親が子供への関わり方を学ぶ事が出来た。集団での活動は、社会での過ごし方・ルールが身に着き大切だと思った。また、家族同士の繋がりが生まれてきた。このような事が家庭教育の支援の一つになったと思う。

○宇和島市 生涯学習課 課長補佐 富田 満久

先日、公民館の全国大会に参加させて頂いた。その中で、文科省の偉い人が「社会教育にルールはない。」と言われていた。家庭教育も同じかと思う。親子が一緒に参加できる行事を公民館がする事によって、親の背中を見て子供が感じる、そこでまたコミュニケーションが生まれる。それが結果的に家庭教育を支援する形にもなるのではないかと思う。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

感想などございましたら、発表願いたい。

○八幡浜市 川之内地区公民館 館長 亀岡 宣夫

小学校が閉校し、隣の小中学校へバスで通学。地域運動会が出来なくなり、代わりの事業を考えている。三日間のお泊り通学合宿は引き続きやっている。どこも悩みはあるが、お互いに声を掛け合う事が一番、防犯上においても大事な事だと思う。

○西条市 社会教育課 係長 平塚英敏

西公民館の愛護班活動のように、必ずしも公民館が中心にならなくても各種団体と事業の協賛・協力をしていけば公民館の姿が変わっていきけるのではないかと思う。

○司会者 西条市 中央公民館運営審議会 高橋 美代子

地域をまとめる組織として、公民館は大変重要な拠点だと思ふ。中々思うように活動出来ないかもしれないが、めげる事なく皆様にご尽力頂きたいと思う。

4 指導・助言

鬼北町 愛治公民館 館長 芝 弘晃

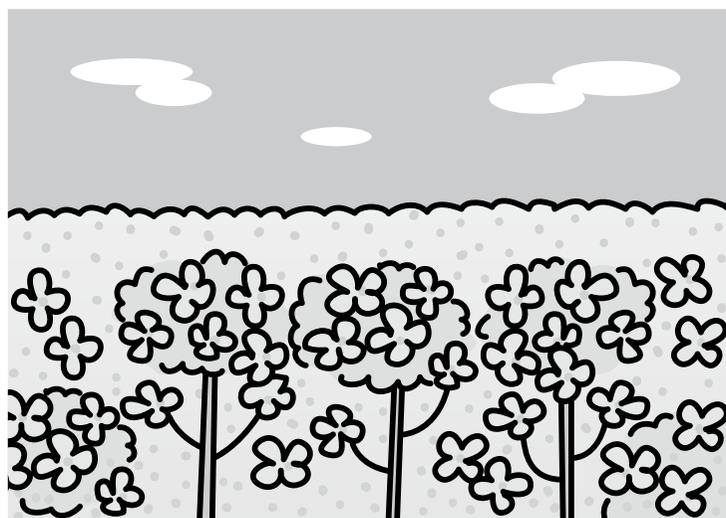
○指導・助言に代えて感想を述べさせて頂きたい。

愛治地区は長月と同程度の規模で、地区外からの定住を促進し

学校の存続を図ろうとしている。仕事は主に地区外なので、当地域では子供教室は時間が短いように思う。各地区の事情に合わせて行えばよいのではないか。

世代交流としては、子供達に農業体験をしてもらいその薫りを使って終業式の日地域の方と一緒に注連縄を作っている。家庭支援は、保護者が少なく高齢者ばかりなので難しく感じる。愛治地区は、教育に熱心で地元を挙げて優秀な人材を作っている。愛治という事で、愛治地区PTA研究会を開催している。地域が一体となって参加し、今年で三三回目である。昨年は、夏井いつき先生をお招きして俳句大会を行った。このような活動も家庭支援に繋がっていくのかなと思う。

公民館活動というのは、まずは公民館に来て頂く。気楽に来て頂くことが地元との繋がりになるのではと思う。微力ながら皆さんのご意見を参考にして、今後活動したい。



県公連だより

平成二十七年

愛媛県公民館連合総会

五月十四日(木)午後、県生涯学習センターにおいて、平成二十七年総会を開催しました。

橋本会長の開会あいさつに続いて、愛媛県教育長仙波隆三様より来賓祝辞をいただいた後、議事に入りました。「平成二十六年度事業報告並びに一般会計歳入歳出決算」「平成二十七年基本方針並びに事業計画(案)」「平成二十七年一般会計歳入歳出予算(案)」「平成二十七年郡市公連会費分担金(案)」等についての審議が行われ原案とおり可決されました。

また、任期満了に伴う役員改選が行われ、二十九年五月までの二年任期の新しい体制がスタートしました。

平成二十七年

公民館新任職員

ネットワークセミナー

六月十一日(木)・十二日(金)の二日間、愛媛県身体障害者福祉センター・道後友輪荘において、公民館新任職員四十六名が参加し、

「活力あふれる公民館をめざして」をテーマにネットワークセミナーを開催しました。県教委生涯学習課の協力をはじめ、公民館活動に幅広い知識や豊かな経験のある講師の方々の講話やレクリエーション実技、先輩主事とのグループ討議等、二日間に亘る充実したセミナーとなりました。

本年度も施設側の全面的な協力のもとに有意義な研修会が開催できました。

平成二十七年

新任館長研修会

六月十八日(木)、県生涯学習センターにおいて、新任公民館長等七十名の参加を得て、公民館制度や公民館における人権・同和教育、地域づくりと公民館活動をテーマとする研修会を開催しました。今後の職務遂行に役立つ基礎知識や公民館運営の基本を身につけることのできる有意義な研修会となりました。

平成二十七年

県公連主事部会・公民館職員等 合同一泊研修会

七月九日(木)・十日(金)の二日間、東温市中央公民館、東温市歴史民俗資料館、東温市消防本部等で「地域づくりと公民館活動」を主題に研修会を開催いたしました。研修会では、「米と風景づくり」の講話のほか「文

化財資料を通してみた地域」をテーマに学芸員による解説と歴史民俗資料館の視察、東温市消防本部等の指導のもとに「防災講習会」を受講するなど、視察や体験学習なども交えた有意義な研修会になりました。

研修実施に当たり、東温市教育委員会、東温市消防本部、地元関係者等から積極的なご協力をいただきました。

平成二十七年

公民館報コンクール審査会

八月二十日(木)、県生涯学習センターにおいて、一部二十三点、二部二十五点の応募から慎重に審査が行われ、入選作品は、一部二部ともに各八点が選考され、十月二十一日に今治市で開催された平成二十七年の県公民館研究大会で表彰されました。

平成二十七年

愛媛県公民館研究大会

(今治市中央公民館大ホール他)

十月二十一日(水)、今治市中央公民館大ホールをメイン会場に、五百三十五名の参加を得て、「新しい公民館像を求めて(公民館の不易と流行)」を主題に研究大会が開催されました。今治市教育委員会はじめ関係各位の全面的なご協力に感謝申し上げます。詳細については、本書の大会記録をご覧ください。

平成二十七年 度

県公連専門委員会

平成二十八年一月十四日(木)、県生涯学習センターにおいて、専門委員会委員四名と会長、副会長(二名)、県公連顧問、県教委担当者の出席で委員会を開催し、事務局から二十七年 度事業報告、二十八年 度事業計画(案)について説明を行った後、学校の統廃合問題、愛護班の実態、全国大会の参加者等について専門委員に意見交換をしていただきました。

平成二十七年 度

第三回理事會

一月二十一日(木)、県生涯学習センターにおいて開催し、二十七年 度の事業実施状況、一般会計歳入歳出決算見込み、二十八年 度事業計画(案)等について協議がなされ、本年度事業及び会計支出が順調に進捗していることが確認されました。

また、二十八年 度の県公民館研究大会等についても協議がなされ、貴重なご意見をいただきました。

平成二十七年 度

全国公民館研究集會 in 鳥取 中国四国地区公民館研究集會鳥取大会

平成二十七年十月十五日(木)・十六日(金)

の二日間、鳥取市「とりぎん文化会館梨花ホール」をメイン会場に、全公連、中国・四国公民館連絡協議会、鳥取県公民館連合会の主催で第三十七回全国公民館研究集會兼第三十八回中国・四国地区公民館研究集會が開催され全国から千九百八十九名、本県からは百四名が参加しました。

研究集會では、『未来を拓く公民館』〜人が輝き 地域がきらめく〜をメインテーマに、第一日目は、開会行事に引き続き、記念講演『変える力』をマンガに求めて(漫画家・京都精華大学学長 竹宮 恵子 氏)、パネルディスカッション(テーマ「これから公民館のあり方」)等がありました。

二日目は、『今求められる公民館』などの五分科会が開催され活発な研究・討議が行われるなど、有意義な研究集會となりました。

なお、来年度からは、全国七ブロックで開催されている各ブロック大会に合わせて全国大会が同時に開催されることとなりました。二十八年度の第三十八回全国公民館研究集會兼第三十九回中国・四国地区公民館研究集會は、九月八日(木)・九日(金)の二日間、山口県山口市で開催される予定です。



愛媛県公友会について

愛媛県公友会(若松進一会長…会員数三十六名)は、県公連、郡市・地区公連の役員であった方、県教育委員会等で公民館担当者であった方、学識経験者や会の趣旨に賛同する方などが会員となり、本県の社会教育の進展や地域づくりに寄与することを願って、昭和六十二年に発足しました。

会では、「あつまる・まなぶ・つなぐ」を基本理念としており、公民館関係の職場を去られてからも、今なお公民館を愛し熱い気持ちを持たれている方々が「新会員」として集われることを、願っています。

これからも、若松会長を中心に会員一同、本県の公民館活動の活性化と社会教育の推進に微力を尽くすことにより、ひいては「故郷へのご恩返し」に繋がれたいと願っています。

新規ご加入の問い合わせ

・ 申し込み先

〒七九一―一―一三六

松山市上野町甲六五〇

県生涯学習センター

県公民館連合会事務局内

愛媛県公友会事務局

TEL 〇八九―九六三―三五八三

(ファクシミリ 同番号)

編集後記

◎「伊予路」第百五十二号をお届けします。

二十七年年度の県公民館研究大会は、今治市中央公民館をメイン会場に開催いたしました。諸般の準備、当日のお手伝いをしていただきました今治市教育委員会、今治市公連の皆様方には、心から感謝を申し上げます。

二十八年度は、松山市での開催が予定されておられます。多数の皆様方がご参加をされますようよろしくお願いいたします。

◎県公連主事部会が中心となり、本年度は、次の事業を実施しました。

『泊研修会』

七月九日(木)十日(金)の二日間、東温市中央公民館・東温市歴史民俗資料館・東温市消防本部等を会場に三十九名が参加して、講話、情報交換、施設見学、防災講習会などの一泊研修会を実施いたしました。

防災講習会では、愛媛十全医療学院附属病院の看護師による「感染症対策」、東温市消防本部職員による「地震体験・濃煙体験、地震発生時の注意点」、東温市市民福祉部の職員による「避難所設営体験・避難所生活での健康管理」などについて研修を受けました。

今回の研修会では、自然災害等の発災時の公民館職員としての貴重な体験や講義を受講することができ、大変有意義な研修会となりました。

今回の研修会実施にご尽力をいただきました

た東温市公連並びに講師の皆様には、心から感謝を申し上げます。

『主事部会研修会』

一月二十九日に愛媛県生涯学習センターにおいて、香川大学生涯学習教育研究センター長の清國祐二教授を講師としてお招きし「公民館職員に求められるファシリテーション力」のテーマで一日かけて研修会を開催いたしました。講義あり演習ありの大変有意義な研修会となりました。

◎今年度も残りわずかとなりましたが、県公連の行事も何とか無事終えることができそうです。これも、ひとえに県教委・市町教委・郡市公連並びに関係各位のご支援・ご協力の賜と、ここに厚く感謝を申し上げます。

◎今回も、各地の公民館での活発な活動内容が投稿されました。本誌発行にご協力をいただきました皆様方には心から感謝申し上げます。



愛媛県公民館連合会機関誌

伊 予 路 第一五二号

発 行 愛媛県公民館連合会

松山市上野町甲六五〇

愛媛県生涯学習センター内

発行年月日 平成二十八年三月十日

印 刷 三創印刷株式会社

☎〇八九―九三三―〇二六八



平成27年度 (平成27年5月1日～平成28年5月1日)

公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会(全公連)の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また社会教育法に定める「公民館の目的」に寄与する施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された公民館もご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポート

1. 行事傷害補償

【災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約セット)+見舞金制度】

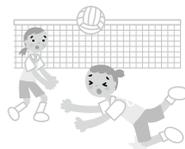
保険

- 公民館行事参加者、公民館利用者のケガを補償
- 公民館行事参加者の往復途上のケガや、行事の事前練習、準備中、後片付けでのケガを補償
- 食中毒や熱中症を補償

見舞金制度

- 急性疾病に、死亡弔慰金、入院見舞金をお支払い。
- 公民館建物災害に見舞金をお支払い

【補償例】



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

2. 賠償責任補償

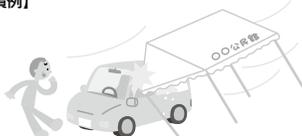
【賠償責任保険(施設所有管理者特約・昇降機特約セット)】

保険

- 公民館の施設の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、物を破損し、公民館が法律上の賠償責任を負担した場合に補償

※公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

【補償例】



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3. 職員災害補償

【普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約セット)+見舞金制度】

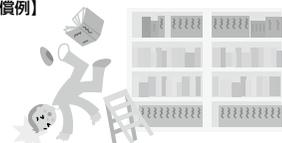
保険

- 公民館業務に携わる方の業務中のケガを補償

見舞金制度

- 公民館業務に携わる方の病気や業務外のケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払い

【補償例】



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

公民館総合補償制度の特徴

(1) 補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

全公連が運営する「見舞金制度」に「保険」を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- 施設内はもちろん、日本国内であれば行事の場所は問いません。
- 行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- 公民館の公認サークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 宿泊をとまなう行事も対象です。

(2) 年1回の手続きで安心です。

年1回の手続きで年間の主催・共催行事が対象になり、個別の通知は不要ですので、うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

(3) 保険料の割引制度もあります。

同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償掛金に割引が適用できます。職員災害補償には、団体割引25%*、過去の損害率による割引20%*を適用しています。(*27年度契約)

のご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「平成27年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパン日本興亜までお寄せください。

■引受保険会社
損害保険ジャパン日本興亜株式会社

営業開発部第三課
〒100-8965 東京都千代田区霞が関3-7-3
TEL 03-3593-6436 FAX 03-3593-6564

「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」は、損保ジャパンと日本興亜損保が2014年9月1日に合併して誕生した会社です。

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)
エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9
TEL : 0120-636-717(通話料無料)
FAX : 0120-226-916(通話料無料)